

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ①平常展								
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 本館、平成館、法隆寺宝物館、東洋館、表慶館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。 本年度から来年度にかけて、東洋館の耐震補強工事が実施されることに伴い、東洋館は6月8日から休館となった。その後、8月4日からは、東洋の考古・工芸の平常展示を表慶館1階で再開し、東洋関係の特集陳列は本館で開催している。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 表慶館の東洋展示は、小規模であるが、改修工事後の東洋館の展示を見据えて、ケースの形状や照明に新手法を試み、好評を得ている。展示全体の解説および15か所のテーマ解説は、すべて日・英・中・韓の四ヶ国語とした。 特集陳列「有職（ゆうそく）」は、王朝時代の宮廷儀礼における礼法・服飾・調度品に関する知識である有職を、衣装、漆工品、刀剣、文書などさまざまな実物資料で紹介した当館ならではの総合的な展示である。 法人の考古資料相互貸借事業経費により、茨城県立歴史館からの借用品を中心に特集陳列「古代・中世の茨城―経塚・板碑・和鏡―」および特集陳列「茨城の弥生再葬墓」を開催した。また埼玉県立さきたま史跡の博物館からの借用品を中心に、特集陳列「埼玉県寿能泥炭層遺跡出土の木製品と漆製品」を開催した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	平常展入場者数	330,536人	—	—		361,173	334,297	412,675	330,536
	陳列替回数	316回	200回	S		308	319	319	316
	陳列総件数	6,601件	5,500件	A		7,283	10,223	7,172	6,601
	特集陳列実施回数	66件	—	—		70	84	79	66
	外国語パネルの設置	97%	80%	A			95%	97%	97%
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、作品キャプションについてはすべてに外国語を付すとともに、展示テーマごとにその時代背景などを説明した外国語パネル等を80%以上設置する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ①平常展								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長	久保智康				
実績・成果	<p>平常展示館建替工事にともない、平常展示は休止せざるをえなかった。そのため下記のように、外へ向かっての収蔵品の公開に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の美 国宝との出会い」展（(1) 展示の充実 ②特別展等 参照） 会期：10月2日～11月8日 展示総件数 35件（うち国宝9件、重要文化財13件） ・国内・国外への博物館美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。 ・上記の貸出作品の情報をHPで公開している。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県水墨美術館・北日本新聞社の主催により行われた当館所蔵品による展覧会で、当館が特別協力したものの。 ・全国的には展示館建替に伴い「貸出し停止」措置をとる博物館・美術館が多い中、当館ではむしろ積極的に貸出を行い、収蔵品公開に努めている。 ・HPにおける貸出作品の情報公開（トップページ「館外での作品公開」）は、寄託作品も個人名を伏せるなどして、網羅的なリストを提示している。このような情報公開は、日本の博物館ではきわめて画期的なものといえる。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21
	平常展入場者数	—	—	—	経年変化	146,752	165,080	141,965	—
	陳列総件数	—	—	—		1,550	1,611	1,081	—
	陳列替回数	—	—	—		59	53	39	—
	特集陳列実施回数	—	—	—		8	7	4	—
	外国語パネル設置	—	—	—		—	100%	100%	—
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	<p>平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					ほぼ順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ①平常展								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	学芸部長補佐	岩田茂樹				
実績・成果	<p>年度を通して、本館における平常展「仏教美術の名品」(彫刻部門)、「中国古代青銅器」(考古部門)を開催し、西新館では平常展「仏教美術の名品」(絵画・書跡・考古・工芸部門)を開催した。そのなかには、「とてもよく似た二つの仏像-金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像-」(～5月17日、本館)、「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」(9月15日～10月4日、西新館)、「南北朝・室町時代の彫刻」(12月1日～、本館)の3回の特集展示が含まれる。</p> <p>企画展示としては、毎年恒例の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(12月8日～1月17日、東新館)、「お水取り」(2月6日～3月14日)を実施した。</p>								
補足事項	<p>前年度に引きつづき、本館および西新館において、仏教美術に関して、国宝・重要文化財を多数含む高水準の展示を行うことができた。</p> <p>昨年度から開始した「注目の逸品」のコーナーも3回開催し、新収蔵品や日頃展示の機会の少ない作品を中心に公開した。</p> <p>特集展示も3回に及んだが、うち「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」は、期限付きで寄託を受けた作品群をまとめて陳列する稀有の機会であった。また「南北朝・室町時代の彫刻」は、寄贈・寄託を受けていながら、これまではあまり公開してこなかった時代の作品にスポットを当てた展示で、本館における彫刻展示の裾野を広げる企画となった。</p> <p>特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」は毎年恒例の企画ではあるが、大和の地を代表する祭礼である「おん祭」の実施時期に合わせて開催するもので、恒例行事として定着してきた。また毎年少しずつ切り口を変えての展示内容を工夫しており、リピーターに対しても興味を失わせないよう努めている。</p> <p>11月中旬より、西新館の耐震工事が始まったため、彫刻以外の部門の陳列件数、陳列替回数には減少したが、特集展示や注目の逸品の回数を増やし、観覧者の関心の惹起に努力した。</p> <p>陳列替内訳：本館4回、西新館2回、東新館2回 計8回 陳列件数の部門別内訳：彫刻 146、絵画 74、書跡 59、考古 303(うち中国古代青銅器 239)、工芸 135 計717</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	平常展入場者数	136,672人	—	—		137,739	131,336	112,849	136,672
	陳列替回数	8回	15	C		20	21	12	8
	陳列総件数	717件	800	B		1,014	928	605	717
	特集陳列等実施件数	8件	—	—		11	10	6	8
	外国語パネル等の設置	91%	80%	A			56%	77%	91%
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	<p>平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」
展示会場

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ① 平常展								
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化交流展室長 河野一隆					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 文化交流展示室では、当館のテーマである日本の文化交流を重視する観点から、例年通り、計画的に431回にわたる展示替えを行い、2106件の文化財を展示した。 展示替え情報は、当館HPやちらし、広報メディアを通じて来館者へ提供した。 昨年に引き続いて、文化交流展示室内で期間を限定して、特定のテーマを掘り下げたトピック展示を実施した(22回)。このうち、当館外部の機関などと共同で主催したトピック展示も5回実施した。 トピック展示ではちらしやポスター、リーフレットや図録などを作成し、関連したシンポジウムも開催して、展示だけではない情報発信ができた。 当館初の新収品を紹介する企画展「新収品'05-'08 交流する文化のかたち」を開催した。 増え続ける外国からの来館者、とくに中国・韓国からの来館者に対し、中国語ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成し、展示室の内容を紹介した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 国宝・重文を含む多数の優れた文化財による展示、特定の動線を持たない、体験的な展示を多数盛り込んでいる、露出展示品と観覧者の距離が大変近い、といった当館ならではの文化交流展示の特徴が理解、定着されつつある。 特に、海外からの団体ツアーや個人客へも、ガイドブックやマップを完備し、好評を博している。 展示の歴史的背景については、音声ガイドのみの解説であったが、中国語・韓国語による解説文も作成し、ケーステーマに隣接して掲載した。 当館としては初の試みである、新収品を紹介した「新収品'05-'08 交流する文化のかたち」を開催し、開館以来の当館収集活動を広く紹介した。 太宰府顕彰会の協賛を経てトピック展示「祈りの山宝満山」を開催し、関連するシンポジウムを開催した。 徳川美術館の協力を経て、新春特別公開「国宝 初音の調度」を開催した。 装飾古墳バーチャルシアターは、例年通り新コンテンツを作成し、2月から公開した。 本年度は入館者が6月11日に600万人、10月11日に700万人を達成した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	平常展入場者数	544,661人	—	—		501,540	341,282	241,423	544,661
	特集陳列	22回	—	—		6	5	17	22
	作品への外国語キャプション	100%	—	—			100%	100%	100%
	時代背景の外国語パネル(音声ガイドで対応を含む)	82%	80%	A			63%	82%	82%
	陳列替回数	431回	300回	A		299	375	386	431
陳列総件数	2,106件	800件	S	2,044	2,012	3,146	2,106		
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すと同時に、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネルを80%以上設置する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

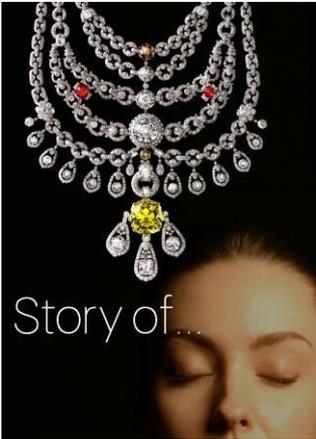


新収品'05-'08 交流する文化のかたち



祈りの山・宝満山(11/13~12/20)

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展等 (1/12) 興福寺創建 1300 年記念／平城遷都 1300 年記念／朝日新聞創刊 130 周年記念／テレビ朝日開局 50 周年 「国宝 阿修羅展」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部博物館情報課情報管理室長 丸山士郎					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 開会期間 平成 21 年 3 月 31 日 (火) ～6 月 7 日 (日) (61 日間) 会場 平成館特別展示室第 1～4 室 主催 東京国立博物館、興福寺、朝日新聞社、テレビ朝日 作品件数 75 件 (うち国宝 58 件、重要文化財 10 件) 入館者数 946,172 人 (21 年度 933,895 人) 入場料金 一般 1500 円 (1300 円／1200 円)、大学生 1200 円 (1000 円／900 円)、高校生 900 円 (700 円／600 円)、中学生以下無料 * ()内は前売り／20 名以上の団体料金 アンケート結果 満足度 77.6% <p>国宝阿修羅像を核として、十大弟子・八部衆などの天平期の諸像ならびに平安期の諸像等を展示し、創建期からの興福寺の歴史的意義を顕彰しつつ、仏教芸術の素晴らしさを鑑賞いただいた。TV、雑誌等各メディアで多数紹介され、非常に大きな反響をいただいた。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 諸像の素晴らしさを鑑賞いただくために、共催社とともに種々の周知手法を展開し、多くの入館者を得ることができた。 予想を大幅に上回る入場者があったことから、待ち時間が長時間に及ぶような場合があった。今後、混雑が予想される展覧会では、これまで以上に様々な対策を講じていく必要がある。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21
	入館者数	946,172 人	540,000 人	S	経年変化				
年度実績評価総括	<p>⑤ A B C F (S、F の理由) 阿修羅像を 360 度から見られるように展示し、プラットホームのような一段高い造作を設け、来館者がさまざまな視点から鑑賞できるようにし、興福寺ではできない空間を創造した。このことから多くの方々から好評を得た。また、共催者とともにさまざまな広報戦略を展開したことで、予想を大幅に上回る入場者があった。</p>								
中期計画記載事項	<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展等 (2/12) 特別展 「Story of...カルティエ クリエイション〜めぐり逢う美の記憶」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課長 井上洋一					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成21年3月28日(土)～5月31日(日) (57日間) ・会場 表慶館1階・2階 ・主催 東京国立博物館、日本経済新聞社 特別協力：カルティエ ・作品件数 276件 ・入館者数 120,483人(21年度 115,568人) ・入場料金 一般1400円、大学生・高校生800円 中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 78.7% <p>日仏交流150周年を記念し、フランスを代表するジュエラー、カルティエが所有する1300点ほどのアーカイヴピースを中心に、267件を展示。世界的にも評価の高いデザイナーの吉岡徳仁氏が監修し、それぞれの宝飾品に秘められたストーリーを演出した。</p>								
補足事項	 <p style="text-align: center;">チラシ広報用画像</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入館者数	120,483人	90,000人	A					
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展等 (3/12) 特別展「染付－藍が彩るアジアの器」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課東洋室長 今井 敦					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成21年7月14日(火)～9月6日(日) (49日間) ・ 会場 平成館特別展示室第1～2室 ・ 主催 東京国立博物館 協力 日油株式会社、産経新聞社 ・ 作品件数 221件(うち重要文化財4件 重要美術品1件) ・ 入館者数 52,731人 ・ 入場料金 一般1000円(800円/700円)、大学生800円(600円/500円)、高校生600円(400円/300円)、中学生以下無料 * ()内は前売り/20名以上の団体料金 ・ アンケート結果 満足度 78.3% <p>アジア各国で焼かれた染付を製品の流通や技術・様式の交流も視野に入れたうえで展示し、東洋の染付の大きな流れを概観した。さらに、さまざまな時代や地域の染付の優品が一堂に会することにより、素地の色や艶、コバルト顔料の発色の微妙な違いを明らかにし、染付の特性と多様性を浮き彫りにした。</p>								
補足事項	<p>昭和18年(1943)に平野耕輔氏(元商工省陶磁器試験所長)より御寄贈を受けた伊万里染付大皿を展示するコーナーをもうけ、さらに、「使う」視点による展示方法を一部で取り入れることにより、実用の器である染付の魅力に迫ることができた。</p> <p>自主企画展であるメリットを活かし、構想段階から展示デザインや教育普及事業などに関して、上述のような新たな試みを積極的に取り入れることができた。入館者数は目標値に達しなかったものの、質の面でこれまでの特別展とは一線を画する内容となったことを高く評価したい。</p>								
	 <p>重要文化財 青花蓮池魚藻文壺 中国・景德鎮窯 元時代・14世紀 大阪市立東洋陶磁美術館</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	入館者数	52,731人	70,000人	B					
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (4/12) 第62回式年遷宮記念 特別展「伊勢神宮と神々の美術」									
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部上席研究員 原田一敏						
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成 21 年 7 月 14 日 (火) ～9 月 6 日 (日) (49 日間) ・ 会場 平成館特別展示室第 3～4 室 ・ 主催 東京国立博物館、霞会館、産経新聞社 ・ 特別協力 神宮司庁 ・ 作品件数 111 件 (うち国宝 17 件、重要文化財 39 件) ・ 入館者数 114,796 人 ・ 入場料金 一般 1400 円 (1100 円/900 円)、大学生 1000 円 (700 円/600 円)、高校生 700 円 (500 円/400 円)、中学生以下無料 ()内は前売/20 名以上の団体料金 ・ アンケート結果 満足度 70.9% <p>2013 年の伊勢神宮式年遷宮を記念し、伊勢神宮の古神宝等を中心に、神道の歴史や文化について紹介した。</p>									
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・なじみの薄いであろう神道美術を大規模に集め、展示する機会となり、貴重な鑑賞体験を設ける場となった。 								会場風景	
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21	
	入館者数	114,796 人	110,000 人	A						
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (5/12) 御即位 20 年記念特別展「皇室の名宝—日本美の華」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部上席研究員 原田 一敏					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 開会期間 1期：平成21年10月6日(火)～11月3日(火・祝) (26日間) 2期：平成21年11月12日(金)～11月29日(日) (18日間) 会場 平成館特別展示室第1～4室・企画展示室 主催 東京国立博物館・宮内庁・NHK 特別協力 NHKプロモーション・読売新聞社・日本経済新聞社 作品件数 205件 1期：81件 (特別展示室 80件 企画展示室 1件) 2期：124件(重要文化財1件)(特別展示室 100件 企画展示室 24件) 入館者数 447,944人(1期 263,303人 2期 184,641人) 入場料金 一般 1300円(1100円/1000円)、大学生 1000円(800円/700円)、高校生 700円(500円/400円)、中学生以下無料 * ()内は前売り/20名以上の団体料金 アンケート結果 満足度：1期 84.9% 2期 63.5% <p>今上陛下の御即位 20 年を記念した本展では、正倉院宝物を含む皇室縁の名品を一堂に紹介した。宮内庁御物と三の丸尚蔵館、正倉院宝物から、特に名品として名高く、人気のある作品を展示することを主とした。本展覧会は、会期を1期と2期に分け、全ての作品を総入れ替えし、1期は安土桃山時代から近代までの作品、2期は古代から江戸後期までの作品で構成した。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 第2期では、絵巻物の陳列において、混雑が集中し、鑑賞環境が低下する機会があった。さらに陳列方法等の工夫を要することとなった。 								
	 <p>伊藤若冲筆 動植綵絵の内 「老松白鳳図」</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入館者数	447,944人	350,000人	A					
年度実績 評価総括	S A B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (6/12) 没後 400 年 特別展「長谷川等伯」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課特別展室長 松嶋雅人					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 開会期間 平成 22 年 2 月 23 日(火)～3 月 22 日(月・休) (25 日間) 会場 平成館特別展示室第 1～4 室 主催 東京国立博物館・毎日新聞社・NHK・NHKプロモーション 後援 文化庁 特別協賛 大塚家具 協賛 JR 東海・大成建設・日本写真印刷・みずほ銀行 作品件数 73 件 (うち国宝 3 件、重要文化財 28 件、重要美術品 1 件) 入館者数 292,526 人 入場料金 一般 1500 円(1300 円/1200 円)、大学生 1200 円(1000 円/900 円)、高校生 900 円(700 円/600 円)中学生以下無料 * ()内は前売り/20 名以上の団体料金 アンケート結果 満足度：86.0% <p>安土桃山時代に活動した長谷川等伯の国内に存在するほぼすべての作品を一挙に公開する史上最大規模の大回顧展。信春と名乗り、能登で活動した初期のものから晩年期までの作品を網羅して展観することによって、その画業を改めて検証することができた。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 大画面の作品が多いため、鑑賞スペースを十全にとった展示構成を立案したが、開催期間後半の会場内は非常に混雑し、鑑賞環境が低下する状況となった。さまざまな状況を想定し、さらに有効な混雑対策を検討する必要がある。 <div style="text-align: right;">  <p>国宝 松林図屏風(右隻) 東京国立博物館</p> </div>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入館者数	292,526 人	160,000 人	S					
年度実績 評価総括	(S) A B C F (S、Fの理由) 等伯の作品をこれまでにない規模で展示したことで、等伯の画業全体を見通すことのできる質の高い展示が実現し、各方面より高い評価を得ることができ、予想を大幅に上回る来館者を得た。								
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

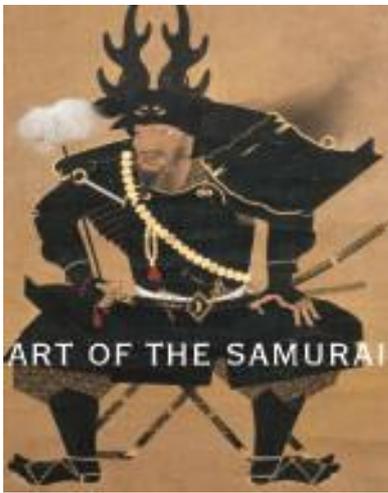
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (7/12) 「海外展 サムライの美術—東京国立博物館精選」 Art of the Samurai: Selections from the Tokyo National Museum Exhibition								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部上席研究員 原田一敏					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成21年4月19日(日)～6月14日(日) (49日間) ・会場 アメリカ・パウワーズ博物館 ・主催 東京国立博物館、パウワーズ博物館 ・作品件数 81件 (うち国宝1件、重要文化財7件) ・入館者数 18,609人 ・入場料金 - ・アンケート結果 満足度-% <p>本展は、東京国立博物館が収蔵する日本美術作品ならびにジョン・プライス氏のコレクション1点を含む優品81件によって、日本の武家文化を紹介した。今回の展覧会では、全体を2部構成とし、第1部では「武士の装い—武器・武具—」をテーマに主に刀剣と甲冑を、第2部では「武家の文化」をテーマに能衣装と茶道具、また武家の女性の装束や婚礼調度を展示、全体でサムライの表と奥の世界を紹介した。</p>								
補足事項	<p>開催地での日本文化に対する関心が非常に高く、文化交流における非常に重要な役割を担うことができた。</p> <div style="text-align: right;">  <p>自在龍置物</p> </div>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入館者数	18,609人	—	—					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (8/12) 海外展「日本・その力と輝き 1568-1868」									
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部長 島谷弘幸						
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成21年12月7日(月)～22年3月8日(月)(91日間) ・会場 イタリア(ミラノ市)・パラッツォ・レアーレ ・主催 イタリア・ミラノ市、モッタ社 ・特別協力 東京国立博物館・大阪市立美術館 ・作品件数 214件(うち国宝1件、重要文化財14件) ・入館者数 47,192人 ・入場料金 一般9€/65歳以上7.5€/6才～18才4.5€/5才以下無料 ・アンケート結果 満足度－% <p>安土桃山時代から江戸時代までの日本美術作品によって近世日本の魅力ある文化的、社会的、経済的な発展を紹介するもので、ミラノにおける日本年の最後を飾る最大行事として、日本美術の精華を紹介する機会となった。また、スカラ座の開幕、ファッションショーの開催など、ミラノが世界に注目される時期に合わせて開催することにより、日本美術を世界に発信するまたとない機会となった。</p>									
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な日本美術作品を幅広く紹介することができ、開催地で高い評価を得ることとなったが、その半面、開催にあたりいくつかの問題点も生じた。海外展における主催者間の明確な事前協議のあり方に課題が残った。 <div data-bbox="1037 891 1455 1099" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">武蔵野図屏風 江戸東京博物館</p>									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21	
	入館者数	47,192人	—	—						
年度実績 評価総括	S ① B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調									

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (9/12) 「日本・ギリシャ修好 110 周年記念 アテネ・メトロ・ミュージアム -ギリシャの地下鉄が結んだ古代と現代-」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課長 井上洋一					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成 21 年 4 月 7 日(火)～5 月 10 日(日) (30 日間) ・会場 東京国立博物館 平成館 企画展示室 ・主催 東京国立博物館、駐日ギリシャ大使館 ・作品件数 一件 ・入館者数 一人 ・入場料金：平常展料金 ・アンケート結果 満足度－% <p>日本とギリシャの修好110周年を記念し、アテネの地下鉄各駅に展示されている古代と現代の作品の見事なコンビネーションを写真パネルと映像資料によって公開する初めての試み。3千年以上もの時を経て尚アテネの日常に息づく文化と歴史、古代と現代の融合を投影するパブリックアートの真髄を紹介した。</p>								
補足事項	 <p>チラシ</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	入館者数	一人	－	－					
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (10/12) 文化庁海外展 「The Power of Dogu」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課長 井上洋一					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成 21 年 9 月 10 日(木)～11 月 22 日(日) (74 日間) ・会場 イギリス・大英博物館(日本ギャラリー) ・主催 文化庁、大英博物館、東京国立博物館 ・作品件数 67 件 (うち国宝：3 件 重要文化財：23 件 重要美術品：2 件) ・入館者数 65,564 人 ・アンケート結果 満足度－％ <p>本展は縄文時代早期から弥生時代中期にわたる日本を代表する各種の土偶ならびにその関連資料を一堂に会し、土偶の発生・盛行・衰退の過程を追うとともに縄文人の造形美の真髄に迫った。</p>								
補足事項	 <p>国宝 縄文のヴィーナス 長野県棚畑遺跡</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	入館者数	65,564 人	—	—					
年度実績 評価総括	S <u>Ⓐ</u> B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信										
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (11/12) 文化庁海外展「侍の芸術」 Art of Samurai: Japanese Arms and Armor. 1156-1868										
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部上席研究員 原田一敏							
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成 21 年 10 月 20 日 (火) ～22 年 1 月 10 日 (日) (69 日間) ・ 会場 ニューヨーク・メトロポリタン美術館 2 階「The Tisch Galleries」 ・ 主催 文化庁 ニューヨーク・メトロポリタン美術館 東京国立博物館 ・ 作品件数 209 件 (うち国宝 34 件 重要文化財 60 件 重要美術品 6 件) ・ 入館者数 187,064 人 ・ 入場料金 一般 20 \$、シニア 15 \$、学生 10 \$、会員および 12 歳以下無料 ・ アンケート結果 満足度-% <p>本展は、日本刀とその刀装具や甲冑などの武器・武具を中心に、陣羽織などの衣裳、肖像画や合戦図絵巻・屏風などの絵画資料を展示した。実用性と同時に、独自の美意識に基づき発展した武器・武具に代表される武士の世界を総合的に展示する海外展としては初めての企画であった。</p>										
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 武士の世界を総合的に展示する海外における、はじめての企画であったが、開催地の関心が極めて高い展示内容であって、高い評価を得ることができた。 									<p>展覧会カタログ表紙</p>	
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21		
	入館者数	187,064 人	—	—							
年度実績評価総括	(S) A B C F (S、Fの理由) 本展は、海外で初めて武士の世界を総合的に紹介したもので、開催地での高い評価を受け、多くの来館者を得た。また日本文化の海外への発信例として高く評価できる。										
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度										
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調										

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (12/12) 文化庁海外展 大英博物館帰国記念 「国宝 土偶展」								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課長 井上洋一					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成21年12月15日(火)～平成22年2月21日(日) (56日間) ・会場 東京国立博物館 本館特別5室 ・主催 文化庁、東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社 ・作品件数 67件 (うち国宝:3件 重要文化財:23件 重要美術品:2件) ・入館者数 128,285人 ・入場料金 一般800円、大学生600円、高校生400円、中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 88.8% <p>本展は、イギリスの大英博物館で2009年9月10日から11月22日まで開催された <i>THE POWER OF DOGU</i> の帰国記念展で、国宝3件と重要文化財23件、重要美術品2件を含む全67件で構成された大英博物館展を「土偶のかたち」「土偶芸術のきわみ」「土偶の仲間たち」という新たな切り口で再構成する。</p>								
補足事項	 <p>国宝 縄文のヴィーナス 長野県棚畑遺跡</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入館者数	128,285人	50,000人	S					
年度実績 評価総括	㊟ A B C F (S、Fの理由) 国宝土偶を筆頭に教科書でもなじみの深い土偶や土器・土製品などが一堂に会し、質の高い展示が実現し、各方面より好評をいただき予想を大幅に上回る来館者を得た。								
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (東京国立博物館) 年3～4回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展 (1/5) 特別展覧会「開山無相大師 650 年遠諱記念 妙心寺」									
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室研究員 羽田 聡						
実績・成果	<p>妙心寺開山・開山慧玄（1277～1360）の 650 年遠諱にちなみ、東京国立博物館および京都国立博物館で行われた大規模な展覧会。妙心寺の歴史にとどまらず、妙心寺を中心に育まれた日本の禅文化、ひいては日本美術を幅広く紹介する機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 21 年 3 月 24 日～5 月 10 日（43 日間） ・会 場 特別展示館 ・主 催 京都国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞大阪本社 ・陳列品総件数 167 件（うち国宝 4 件、重要文化財 48 件） ・海外からの出陳件数 1 件（アメリカ・メトロポリタン美術館） ・入場者数 106,081 人（目標 30,000 人） ・入場料金 一般 1300 円、大高生 900 円、中小生 400 円 ・アンケート結果 満足度 89% 									
補足事項	<p>・準備に 4 年をかけ、京都国立博物館及び東京国立博物館とで可能な限り調査を実施し、新出の作品を見いだすことにつとめるとともに、既知の作品に対する再評価を徹底させ、見解を図録に反映させた。</p> <p>・妙心寺の歴史をたどるといふありふれた展覧会ではなく、会場構成を「1 臨済禅一応燈関の法脈一、2 妙心寺の開創一花園法皇の帰依一、3 妙心寺の中興一歴代と外護者一、4 禅の空間Ⅰ一唐絵と中世水墨画一、5 遠諱の風景一荘厳と儀礼一、6 妙心寺と大檀越一繁栄の礎一、7 近世の禅風一白隠登場一、8 禅の空間Ⅱ一近世障屏画のかがやき一」とすることで、妙心寺を中心に育まれた日本の禅文化、ひいては日本美術を幅広く紹介するようつとめた。</p> <p>・妙心寺山内にとどまらず、関係作品を各所より集約することで、一寺院の名宝展という枠を塗り替えた。とくに、海外からはアメリカのメトロポリタン美術館より、天祥院旧蔵の「老松図襖 狩野山雪筆」を一時的に里帰りさせることに成功した。</p> <p>・本展は平成 21 年 1 月 20 日から 3 月 1 日にかけて、東京国立博物館で開催されているが、双方で出陳作品を組み替えることにより、各会場の独自性があらわれるよう配慮した。なお、当館での妙心寺に関わる展覧会は「妙心寺名宝展」（昭和 10 年）、「妙心寺の名宝」（昭和 52 年）、「妙心寺の障屏画」（昭和 60 年）につづき四度目となるが、過去の展覧会を上回る規模の作品が出陳されている。</p> <p>・こうした各種の工夫により、最終的な入館者数は 10 万人を越えることとなった。「京都最古の禅寺 建仁寺」展の 8 万 6 千人、「亀山法皇 700 年御忌記念 南禅寺」展の 5 万 8 千人といった、京都の一寺院を題材とした過去の特別展覧会の実績と比較しても、非常にすぐれたものであると評価できる。</p>									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21		
	入場者数	106,081 人	30,000 人	S						
年度実績評価総括	<p>㊟ A B C F (S、Fの理由) 準備に膨大な調査を実施し、それを反映した展示内容、図録などに高い評価を得た。入館者も目標を大きく超える数となった。</p>									
中期計画記載事項	<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年 2～3 回程度</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調									



特別展覧会「妙心寺」会場風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展 (2/5) 特別展覧会「シルクロード 文字を辿って ―ロシア探検隊収集の文物―」									
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	上席研究員 赤尾栄慶						
実績・成果	<p>ロシア・サンクトペテルブルクにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の西域文献を中心に128件をコータン、クチャ・カラシャール・トルファン、敦煌、カラホトの各地域に分類して展示し、合わせて関連特集陳列「中国の写本と版本」も開催した。ロシア探検隊収集の西域文献が、日本の博物館では初めて多数展示される大規模な展覧会となり、世界の敦煌学・東洋史の研究者から注目される展示となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 7月14日～9月6日(48日間) ・会場 特別展示館 ・主催 京都国立博物館、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所 ・陳列品総件数 128件 ・海外からの出陳件数 ロシア科学アカデミー東洋写本研究所 127件・エルミターージュ美術館 1件 ・入場者数 25,511人(目標20,000人) ・入場料金 一般1200円、大高生800円、中小生無料 ・アンケート結果 満足度80% ・関連講座 5回実施 									
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・128件のうち、日本初公開が全体の9割を占めるという内容であり、敦煌学発祥の地、京都にふさわしい内容にすることが出来た。 ・関連特集展示として、「中国の写本と版本」を併設し、館藏品5件、寄託品8件の13件(国宝2件、重文5件を含む)を展示し、相互に関連する資料として理解を深められるように配慮した。 ・文字資料が中心であったことから、小中学生向けワークシート「シルクロードの文字を探検しよう!」や博物館ディクショナリー「紙とは違う材料に書き写す」というリーフレットを作成し、小中学生を中心とした入館者の理解を助けるように努めた。事前学習のためにウェブページにPDFで公開した。小中学生のみならず、大人にも好評を博した。 ・会期が夏休みにあたったため、小中学生は無料とした。 ・敦煌学や東洋史の研究者から、高い評価を得た。 								<p>特別展覧会「シルクロード 文字を辿って」チラシ</p>	
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21		
	入場者数	25,511人	20,000人	A	経年変化					
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(京都国立博物館) 年2～3回程度</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。								順調		

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

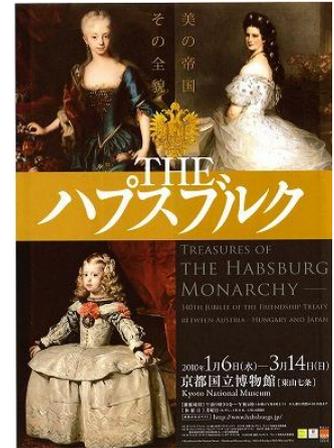
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展 (3/5) 特別展覧会「日蓮と法華の名宝—華ひらく京都町衆文化—」								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室研究員 大原 嘉豊					
実績・成果	<p>文応元年(1260)、日蓮は鎌倉幕府前執権北条時頼に『立正安国論』を献じた。平成21年はそれから750年目の節目の年に当たり、それを記念して日蓮の生涯と日蓮法華信仰に関わる特別展を企画した。京都だけの開催ということもあり、京都十六本山を中心とする日蓮法華宗の寺宝と法華信徒の多かった京都町衆との関係を紹介することに重点をおいた。京都はかつて「題目の巷」と称され、日蓮法華宗は京都の発展に重要な役割を果たしたが、今日ではあまり関心の対象となっていない。その再評価を行うことを主眼とし、各寺院調査の成果を生かしてかつてない大規模展として成功裏に終えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 10月10日～11月23日(39日間) ・会場 特別展示館 ・主催 京都国立博物館、日蓮聖人門下連合会、日本経済新聞社、京都新聞社 ・陳列品総件数 203件(うち国宝4件、重要文化財55件、重要美術品6件) ・海外からの出陳件数 1件(ハーバード燕京図書館) ・入場者数 88,187人(目標30,000人) ・入場料金 一般1300円、大・高校生900円、中・小学生400円 ・アンケート結果 満足度79% 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・京都十六本山を中心とする事前調査の成果として、初公開作品37点・新発見作品12点に及ぶ多数の新資料を公開することが出来、今後の研究に大きく裨益した。 ・展示構成は、第一部 法華文化の展開、第二部 日蓮とその時代、第三部 京都開教と西国への展開、第四部 京都受難の時代、第五部 復興と近世文化の開花とした。時代順の展示としたため、歴史的展開がよくわかったという好意的意見を多数頂いた。 ・入場者数は、日蓮法華宗寺院関係者の団体観覧者が相当割合を占めると予測していたが、実際には、関係団体前売券での入場者数は全体の三分の一弱にとどまり、広く一般の関心を集めることができた。 ・図録の購買率は10%弱であり、当館の平均的水準を達成することができた。 ・アンケートで良くないとする割合は2%以下で、高い満足度であった。本展では、京都橘大学の学生ボランティアの協力を得て、無作為抽出の出口アンケートも併用したが、同様の結果が得られている。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21	
	入場者数	88,187人	30,000人	S	経年変化				
年度実績評価総括	<p>㊟ A B C F (S、Fの理由) 調査を重ねた準備過程、展示内容、図録などに高い評価を得た。</p>								
中期計画記載事項	<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 (京都国立博物館) 年2～3回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



特別展覧会「日蓮と法華の名宝」
チラシ

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展 (4/5) 特別展覧会「THE ハプスブルク」							
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長	久保 智康			
実績・成果	<p>日本とオーストリア、ハンガリーとの国交樹立 140 周年を記念して、ウィーン美術史美術館とブダペスト国立西洋美術館所蔵品を中心としたハプスブルク家コレクションを展覧。明治天皇から寄贈された日本絵画の画帖と蒔絵から始まり、イタリア、スペイン、ドイツ、オランダ・フランドルの絵画を総覧し、クンストカンマーと呼ばれる彫刻・工芸の興味深い蒐集品を通して、西洋の宮廷美術を理解する機会を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 22年1月6日～3月14日 (60日間) ・会場 特別展示館 ・主催 京都国立博物館、読売新聞大阪本社、毎日放送 ・陳列品総件数 116件 ・海外からの出陳件数 116件 (ウィーン美術史美術館・ブダペスト国立西洋美術館・オーストリア工芸美術館・ウィーン家具博物館) ・入場者数 247,078人 (目標 50,000人) ・入場料金 一般1500円、大・高校生1000円、中・小学生500円 ・アンケート結果 満足度 90% 							
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・当館の絵画・漆工の担当者がウィーンで詳細調査を行った成果を公表できた。とくに画帖については、ウィーンでも公開されたことがなく、本展が里帰りでかつ初公開となり、注目を集めた。 ・図録では、上記作品についての論文と、企画担当の久保が、ハプスブルク工芸と日本工芸の同調性について論文を書き、開催館としての学術的主体性を発揮した。 ・ウィーン側関係者との交渉によって、従前のウィーン美術史美術館関係展覧会よりも格段に格上の作品を展覧することができ、決定版とでもいふべき内容となった。 ・特別展示館がウィーン美術史美術館の6年後に建ったギャラリーであることを生かし、天井灯とケース内照明を生かして、同美術館に近い光環境の中で作品鑑賞できるよう試み、観客から高い評価を得た。 ・入場者数は20万人に達し、国立博物館として西洋美術を展示する意義についてもアピールすることができた。 							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21
	入場者数	247,078人	50,000人	S	経年変化			
年度実績評価総括	<p>㊟ A B C F (S、Fの理由) 補足事項で述べた諸々の努力の結果、会場の特性を有効に活用した展覧会の質的結果が出せ、入場者数という定量的結果を出すことができた。</p>							
中期計画記載事項	<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。 (京都国立博物館) 年2～3回程度</p>							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							



特別展覧会「THE ハプスブルク」
チラシ

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (5/5) 「日本の美 国宝との出会い」展								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室長 山下善也					
実績・成果	<p>当館が所蔵する日本美術の名品の中から平安時代から江戸時代に至る、大和絵、仏画、水墨画、琳派、写生画派、南画などの優品を選びすぎり、国宝、重要文化財を含む35件を展示。日本の美の真髄にふれ、その本質の一端を、富山市を中心とする北陸の方々を紹介する機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 10月2日～11月8日(33日間) ・会場 富山県水墨美術館 ・主催 「日本の美 国宝との出会い展」実行委員会(北日本新聞社、富山県水墨美術館) ・特別協力 京都国立博物館 ・陳列品総件数 35件(うち国宝9件、重要文化財13件) ・入場者数 30,366人 ・入場料金 一般 1,000円、大学生 700円、小・中・高校生等無料 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県水墨美術館・北日本新聞社の主催により行われた当館所蔵品による展覧会で、当館が特別協力した。 ・全作品を当館収蔵品で構成し、平常展示館建て替えに伴い中断している館蔵品公開の役割を果たす重要な機会となった。 ・展示は、開催館と当館両者の共同作業により行い、実質的な協力関係を築くことができた。 ・図録は当館研究員が執筆し、各作品の新たな見方を提示した。 ・開会式では、当館館員が会場で展示解説を行った。 ・会期中、羽田研究員が、京都国立博物館の歩みと出品作品の見所についてレクチャーを行った。 ・富山県において30,000人を超える展覧会はきわめて少なく、今回は画期的なことと地元で大きな評価を得た。 								
	 <p>「日本の美 国宝との出会い」展チラシ</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入場者数	30,366人	20,000人	S					
年度実績 評価総括	<p>㊟ A B C F (S、Fの理由) 自館の展覧会業務が重なる中で、地方館において展示作品・構成・図録まで全面的に協力し、平常展示館休館による収蔵品公開の不足を補えた。入館者も目標を大きく超えた。</p>								
中期計画 記載事項	<p>特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (京都国立博物館) 年2～3回程度</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展 (1/3) 「国宝 鑑真和上展」								
担当者	担当部課	学芸部企画室	事業責任者	企画室長	稲本泰生				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 4月4日(土)～5月24日(日) (開館は45日間)。 ・会 場 奈良国立博物館 東・西新館 ・主 催 奈良国立博物館、唐招提寺、TBS、毎日放送、朝日新聞社、日本経済新聞社 ・陳列品総数 74件 (うち国宝12件、重文36件) ・入場者数 93,779人 (目標35,000人) ・観覧料金 一般1,200円、高・大生800円、小・中生500円 ・アンケート結果 90.2% ・鑑真和上像(国宝)をはじめとする、唐招提寺所蔵の文化財の数々を一堂に展示した。 ・平成13年の東京都美術館における開催以来、当館の学術協力のもとで全国7会場を巡回してきた「国宝 鑑真和上展」の最終回にあたり、従来からの内容に本会場独自のコーナーや出陳品を加え、その集大成にふさわしい充実した展覧会となった。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・他会場で開催した同名の展覧会に出陳されなかった金堂屋根東西の鴟尾(国宝)、釈迦如来像(重文)、御影堂障壁画(東山魁夷筆)などを展示、注目を集めた。 ・図録は従来のものに増補改訂を加え、本会場独自のものを制作・刊行した。 ・十年間に及び、21年秋に完了した唐招提寺金堂解体修理事業の過程を、写真パネル・映像等で示した。また金堂屋根から下ろされた鴟尾の寺外初公開を行うなどして、同事業と文化財保存活動の意義を、広く紹介することができた。 ・釈迦如来像と日供舍利塔(重文)を唐招提寺礼堂における配置に則って展示し、会期中、鎌倉時代以来行われてきた「釈迦念仏会」の再現を当該場所で行って、南都仏教の儀礼空間を広く紹介した。 ・21年3月に阪神なんば線が開通し、奈良と鉄道で結ばれた神戸市で、会期中に「鑑真和上・唐招提寺フォーラム2009」を開催した。また公開講座5回、サンデートーク2回、唐招提寺僧によるギャラリートーク4回を開催した。いずれも好評を博し、多数の来聴者を得た。 ・会期中に近畿圏で新型インフルエンザが発生したため、状況によっては休館を検討せざるを得なかった。幸い休館の事態は免れたが、終盤の入館者数に伸びを欠いた。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入場者数	93,779人	35,000人	S					
年度実績評価総括	⑤ A B C F (S、Fの理由) 当初目標を大きく上回る10万人近い入場者があり、アンケートによる評価も非常に高かった。								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



鑑真和上展チラシ

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展 (2/3) 「聖地寧波－日本仏教1300年の源流～すべてはここからやって来た～」								
担当者	担当部課	学芸部	保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室長 谷口耕生				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 7月18日～8月30日 (40日間) ・会 場 奈良国立博物館 東・西新館 ・主 催 奈良国立博物館、読売新聞大阪本社、NHK 奈良放送局 ・後 援 文化庁、中華人民共和国駐日本大使館、寧波市人民政府 ・特別協力 浙江省文物局、上海博物館 ・陳列品総数 175件 (国宝10件、重文74件) ・入場者数 30,548人 (目標30,000人) ・観覧料金 一般1,200円 高・大生800円 小・中生500円 ・アンケート結果 満足度75.4% 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本展覧会は、日本の仏教文化の故郷とも言うべき中国浙江省寧波という町に焦点を当てて日中の仏教美術の交流を紹介するもので、最新の研究動向を踏まえた学術性の高い内容が評価された。 ・例年客足の鈍る7月後半から8月末までという開催時期に加え、6週間という当館の特別展としては短い会期であったにも関わらず、入館目標の3万人を達成することができたのは健闘したといえよう。 ・長年学術交流を続けてきた上海博物館の仲介により浙江省文物局・浙江省博物館の全面的な協力を得て、中国浙江省から日本初公開の1級文物を多数借用することができた。 ・図録の販売部数は3,989冊を数え、購入率13%という極めて高い数値を達成することができた。 ・普段耳慣れない寧波の仏教文化を夏休み中の児童にわかりやすく紹介するため、漫画入り子供用図録「寧波虎の巻」を作成し、期間中1,168冊を販売した (購入率3.8%)。 ・開催前に借用文化財に光学調査を実施して大きな成果を上げ、その成果を図録に反映することができた。また会期中にも借用した文化財の光学調査を行って大きな学術的成果を得ることができ、またこれを直ちに報道発表し、集客へもつなげた。 ・会期中、8月8・9日の2日間にわたる関連国際学術シンポジウムを開催して合計216名という多数の参加者があった。そのうち中国・台湾・韓国・アメリカからの外国人63名の参加があった。 						 <p>聖地寧波展ポスター</p>		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入場者数	30,548人	30,000人	A					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

展示風景 (清涼寺釈迦如来と中国浙江省雷峰塔出土銀阿育王塔)



中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ②特別展 (3/3) 第 61 回正倉院展								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	部長補佐 内藤 栄					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・会 期 10月24日～11月12日 (20日間) ・会 場 奈良国立博物館 東・西新館 ・主 催 奈良国立博物館 ・陳列品総数 66件 ・入場者数 299,294人 ・観覧料金 一般1000円 大・高生700円 小・中学生400円 ・アンケート結果 満足度79.3% 								
補足事項	<p>御在位 20 年の記念展であるため、会期は例年より長い 20 日間であり（例年は 17 日間）、出陳宝物の内容も充実していた。そのため、混雑が事前に予想されたため、様々な対応が求められた。対応例を挙げる。混雑によるケース内環境の悪化に対しては、気密性が良く（空気交換 0.3 回/日）独自の調湿機器を有するケースを導入し、湿度変化を 1%以内に抑えることができた。混雑時でも快適な鑑賞ができるように、四面から見られる独立ケースを主流とし、壁面ケースの使用は極力少なくした。壁面ケースは人垣で宝物が見えないことがあるため、題箋の横に宝物の写真を張り出し、人垣の前からでもどのような宝物が展示されているかが一目で分かるようにした。さらに、昨年導入して効果があった独立ケースの手すりを増やした。また、新造したケースは高透過低反射ガラスを使用した。ガラスを意識せずに鑑賞できたことで好評であった。今年度初めて導入した客数計測システムの数値を入館者の調整に反映させた。観覧者は年々増えていると同時に、アンケートに見る満足度も上昇しており、展示環境の改善の効果が出ていると考えられる。正倉院展にあわせて、関連展示として「皇后陛下の御養蚕と正倉院宝物の復元」と写真展「皇室の方々と正倉院展」を開催した。なお、最終日は御在位 20 年を記念し無料観覧日とした。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入場者数	299,294人	180,000人	S		283,515 (20日間)	248,389	263,765	299,294 (20日間)
年度実績 評価総括	S <u>A</u> B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



紫檀木画槽琵琶の展示風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展 (1/4) 聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝									
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化財課長 臺信祐爾						
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 開会期間： 4月11日(土)～6月14日(日)(58日間) 会場： 特別展示室 主催： 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNC テレビ西日本、中華文物交流協会、中国チベット文化保護発展協会 陳列品総件数： 123件(うち国家一級文物36件) 入場者数： 140,917人(目標入場者数 100,000人) 入場料金： 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 アンケート結果：満足度 90.6% 展示構成： チベット自治区および河北省承德にある世界文化遺産に登録された宮殿、寺院や博物館の所蔵品から、わが国初公開となる文化財123件を展示した。構成は、1「仏教伝来の道」、2「チベット仏教の世界」、3「天空のパレス ポタラ宮」、4「チベットと漢文化 500年の交流」から成る。 									
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> チベット文化を総合的に紹介するはじめての展覧会であり、また日本ではじめて公開される文物が大多数を占め、その開催意義は大きい。 チベットの密教信仰を象徴する五色の布「タルチョー」を、展示室のみならずエントランスなどに張り巡らせ、異空間を演出した。 日本ではあまりなじみがないチベット独特の尊格に親しんでもらうため、おみくじを引くように自分の守護尊を選ぶ「守りがみ」を企画、作成し好評を得た。この「守りがみ」の企画は、巡回先(北海道立近代美術館)へも引き継がれ、好評を得た。 椎名誠氏(作家)の講演会および写真展、本展監修者である曾布川寛氏(京都大学人文科学研究所)の講演会、タンカ絵師のウゲン・ナムゲン氏によるタンカ講座など、数多くの関連イベントを企画実行した。 									
	 									
	聖地チベット展風景									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21	
	入場者数	140,917人	100,000人	A						
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調									

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展 (2/4) 国宝 阿修羅展								
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	展示課主任研究員 楠井隆志					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 開会期間 7月14日(火)～9月27日(日)(68日間) 会場 特別展示室 主催 九州国立博物館・福岡県、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社、九州朝日放送 陳列品総件数：66件(国宝56件・重文8件) 入場者数：711,154人(目標入場者数120,000人) 入場料金：一般1,300円、大学生1,000円、高校生800円、小中生600円 アンケート結果：満足度90.0% 興福寺創建1300年記念と中金堂再建事業にあわせて企画開催されたもので、東京国立博物館をへての巡回展。創建時に埋納された鎮壇具や阿修羅像をはじめとする乾漆像、鎌倉復興期の慶派の諸像などを展示した。第1章「興福寺創建と中金堂鎮壇具」、第2章「阿修羅とその世界」、第3章「中金堂再建と仏像」、第4章「バーチャルリアリティ映像 よみがえる興福寺中金堂・阿修羅像」から構成される。 会期中記念講演会を3回(興福寺貫首多川俊映氏・同国宝館館長金子啓明氏・奈良大学教授東野治之氏)開催し、毎週土曜日には興福寺僧侶による講座を実施した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 阿修羅像をはじめとする興福寺創建時の乾漆像のうち9体が一堂に会する、九州では空前絶後の展示構成となり、多くの関心を集めた展観となった。 仏像群は安全性に配慮した上で露出展示し、原則として360度から観覧できるようにした。照明も多方向から光を照射することで像を立体的に見せるよう工夫し、好評であった。 東京展での混雑状況をふまえ、作品と観覧者の安全に配慮しつつデザイン性を損なわない展示物や造作の配置を検討した。また会場外の日よけテントや冷水機設置、ミスト噴射などを行い、概ね好意的に受け止められた。 特別展第3室全体をバーチャルリアリティ映像用にあてる当館初めての試みを行った。 教育普及として、展示物や内容などをイラストや写真などでわかりやすく解説した「阿修羅新聞」を会期中の3期にわたり発行(計50万部)、配布した。また会場内でのイラスト解説が好評を博し、会期中に小冊子(『阿修羅のころにふれる旅』)にまとめ2,000部を作成販売、完売した。 阿修羅像など乾漆像のCTスキャン調査を主催者合同で行い、成果を記者発表した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	入場者数	711,154人	120,000人	S					
年度実績評価総括	㊟ A B C F (S、Fの理由) 入館者が目標値を大きく上回り、過去の九州における展観の最多記録を更新した。主催者間で協議を重ねた事前の混雑対策も概ね功を奏した。								
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	達成								

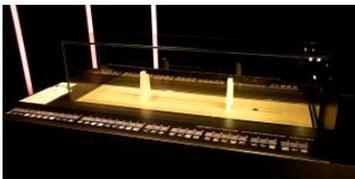


会場風景1



会場風景2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展 (3/4) 古代九州の国宝									
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	展示課長	赤司善彦					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 開会期間 平成21年10月20日(火)～11月29日(日)(37日間) 会場 特別展示室 主催 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社・NHK福岡放送局、NHKプラネット九州 陳列品総件数：400件(国宝5件、重文22件) 入場者数：72,741人(目標30,000人) 観覧料：一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 アンケート結果：満足度 88.7% 対外交流における九州の歴史的な役割を、各地域の多様性に注目しつつ、考古学の成果により紹介した。展示構成は第一部「交流の島 九州」、第二部「九州とヤマト」および第三部「古墳を飾る」の三部からなる。 									
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 対外交流における九州の歴史的な役割を示す考古資料を多数陳列した。とくに九州出土の考古資料のうち一貴山銚子塚古墳出土品など関西や関東の博物館等が所蔵する重要資料を、出土地である九州において一堂に展示した。 学術講演として、シンポジウム「邪馬台国はここにあった」(11月8日、橋本輝彦氏・高島忠平氏ほか)、シンポジウム「装飾古墳と科学」(11月15日、沢田正昭氏・朽津信明氏ほか)などを、関連事業としてセミナー「夜光貝とサンゴの海」(11月8日、池村茂氏)を実施した。 教育普及として小冊子「考古少年のなぞときメモ」を作成し、プログラム「なりきり考古学者体験」(11月21日～23日)を実施した。また図録購入者には「九博オリジナル野帳」を配付した。 									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21	
	入場者数	72,741人	30,000人	S						
年度実績評価総括	⑤ A B C F (S、Fの理由) 入場者数が目標値を上回った。図録の普及につとめ、図録購入率7.19%という九博では従来にない高い数値(過去最高)を示した。									
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	達成									

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信											
事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展 (4/4) 京都妙心寺一禅の至宝と九州・琉球一											
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	展示課	楠井隆志							
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 開会期間： 22年1月1日(金)～2月28日(日)(52日間) 会場： 特別展示室 主催： 九州国立博物館・福岡県、臨濟宗妙心寺派大本山妙心寺、西日本新聞社、TVQ九州放送 陳列品総件数： 124件(うち国宝4件、重要文化財35件) 入場者数： 130,231人(目標入場者数 80,000人) 入場料金： 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 アンケート結果：満足度 91.6% 展示構成： 妙心寺本山・塔頭および九州・沖縄における妙心寺派寺院の所蔵品124件を展示。構成は、第一章「京都妙心寺の名宝」、第二章「妙心寺と九州・琉球」から成る。 											
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 「妙心寺展」は、東京国立博物館、京都国立博物館、名古屋市博物館でも開催されたが、九州国立博物館の「妙心寺展」は、妙心寺本山だけでなく、九州・沖縄の妙心寺派寺院に伝わる文化財を取り上げ、九州国立博物館独自の視点を強く打ち出した。 九州・沖縄の妙心寺派寺院から出陳される文化財は、この展覧会を機に研究員が新たに実施した調査によって発掘した成果であり、そのほとんどが初公開である。 教育普及の取り組みとして、禅のキーワードをわかりやすく解説した「プチ禅カード」を作成した。 玄侑宗久氏(作家、妙心寺派住職)、竹貫元勝氏(花園大学教授)らによる講演会、妙心寺鐘と観世音寺鐘を聞き比べる「鳴鐘会」、坐禅会や尺八コンサートなどの関連イベントを企画実行した。 									会場風景		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21			
	入場者数	130,231人	80,000人	S								
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)											
中期計画記載事項	特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。 (九州国立博物館) 年2～3回程度											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。									順調			

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(1) 展示の充実 ③展覧会広報								
担当者	担当部課	学芸企画部広報室	事業責任者	広報室長 小林 牧					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 東京国立博物館ニュース、フロアガイド、総合パンフレット、展示・催し物のご案内、庭園ガイドマップを改訂発行した。 ウェブサイトトップページのリニューアルをはかった。 博物館情報をメールマガジンにより配信した。 平常展の活性化を目指した広報展開を行った。 マスコミ媒体と連携した広報活動の展開をはかった。 共催者やPR会社と協力し、特別展の大規模なプロモートを実施した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 特集陳列「趙之謙とその時代」(8月4日～9月27日)開催にあたり、台東区立書道博物館と連携して、報道内覧会、周知印刷物の制作、DM、交通広告を行なった。 上野駅公園口で通年ポスター掲示を実施。 「月刊うえの」「月刊書道界」「展覧会ガイド」「にっぽにあ」等で収蔵品を紹介する連載ページを確保。 約280媒体に月1回プレスリリース送付を送付、その他美術記者クラブ等に臨時のリリースを配信するなど、マスコミ媒体との連携による広報を行なった。マスコミの取材・撮影・写真貸出し等約340件(特別展PR事務局窓口分含まず)、掲載(新聞・雑誌・インターネット等)約272件(特別展開連掲載を含まず。統計表<共通資料d-④>を参照) 								
									
	趙之謙とその時代 記者内覧会 (8/3)								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	東京国立博物館ニュースの発行	6回	6回	A		6	6	6	6
	ウェブサイトの更新	5,576回	300回	S		3,000	4,547	3,616	5,576
	電子メールマガジン配信登録者数	57回	—	—		58	57	53	57
		16,508名	—	—	15,138	16,758	14,237	16,508	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

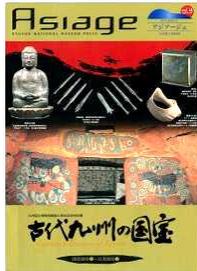
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ③ 展覧会広報								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長	久保智康				
実績・成果	<p>マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動の展開 各展覧会の招待日にプレス発表会を開催 展示予定の新発見作品について、特別にプレス発表会を開催 「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布 「博物館だより」の発行・配布（4回） 「News Letter」の発行・配布（4回） 「館内案内」リーフレット（6ヶ国語）の作成・配布 メールマガジンの発行（18回） ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語） モバイルサイトによる情報提供 東山地区の建仁寺・智積院・東福寺などの寄託社寺と連携し、チラシの交換、ホームページのリンク等の広報活動を展開 京都市内4館（京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館）の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「博物館だより」は、年4回、それぞれ1万部から2万5,000部発行（季節による入館者見込により増減）し、観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送している。 ・「News Letter」は、「博物館だより」の英語版として年4回発行し、配布している。現在105号に達しすでに四半世紀を超えた刊行物として、外国人観覧者や留学生らの好評を博している。 ・ウェブのトップページを一新し、特別展覧会を前面にアピールするデザインとし、会場の混雑状況速報も加えている。 <div data-bbox="946 875 1406 1144" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">2009 年間スケジュールリーフレット</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
博物館だよりの発行	4回	4回	A	4		4	4	4	
News Letter の発行	4回	4回	A	4		4	4	4	
展示案内リーフレットの作成	6ヶ国語	6ヶ国語	A	6ヶ国語		6ヶ国語	6ヶ国語	6ヶ国語	
年度実績評価総括	<p>㊟ A B C F （S、Fの理由）少ない人員で、最大限の広報活動を展開した。ウェブのトップページも展覧会をアピールすべく一新した。たよりやウェブページのデザインも洗練されたものを目指し、外部の評価も高い。</p>								
中期計画記載事項	<p>個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入場者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入場者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ③ 展覧会広報							
担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長 添田美由紀				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良国立博物館だより 年4回発行 ・奈良国立博物館リーフレット(7ヶ国語)発行 日本語2万部、英語1万部、韓国語8千部、中国語5千部、仏・独・西語各2千部 ・奈良国立博物館展示案内を年2回発行 ・電子メールマガジンによる博物館情報の発信 ・配信回数13回、登録者4,970人 ・特別展「聖地寧波」では、奈良県で開催された「まほろば総体」参加者向け入場割引券つきチラシを作成し配布 ・特別展「聖地寧波」では観覧券と展覧会図録がセットになった「観覧&図録セット券」を発行 ・平常展の入場割引券を発行(特別陳列「おん祭り」「お水取り」開催期間中) ・文化大使を任命し、奈良国立博物館の広報宣伝に一役買っている。 ・特別展「国宝 鑑真和上展」、「聖地寧波展」、「第61回正倉院展」の広報のため、ポスター(B1、B2、B3)、チラシを作成した。特別展「聖地寧波」では先行ポスター、先行チラシを作成した。 ・新聞社、テレビ局の広報媒体を活用した。特別展「国宝 鑑真和上展」ではTBSが特別番組を作成し、「正倉院展」ではNHKの日曜美術館が取り上げ、また読売新聞社が紙上における連載、特集、記事のほか、同社作成のポスター、看板が東京駅、新大阪駅等主要駅等に掲載された。 ・「正倉院展」において、読売新聞社主催の「正倉院フォーラム」が東京、大阪、福岡で開催され、「正倉院展へのいざない」が名古屋で開催された。 ・特別展では開催1ヶ月ほど前に記者発表を行った。来年度開催の特別展「平城遷都1300年記念大遣唐使展」に関しては、4ヶ月前の12月上旬に東京において記者発表を行った。 ・特別展、特別陳列の会期前日にプレスプレビューを行った。 							
補足事項	 <p style="text-align: center;">大遣唐使展記者発表</p>							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21
	博物館だより発行	4回	4回	A	4	4	4	4
	メールマガジン登録者数	4,970件	—	—	2,826	3,413	3,978	4,970
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)							
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(1) 展示の充実 ③ 展覧会広報								
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化交流展室長	河野一隆	特別展室長	伊藤信二	広報課長	不動勝義
実績・成果	<p>①外国語のガイドブック(中国語)・マップ(英語・中国語・韓国語)を刊行した。</p> <p>②テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえて、web コンテンツやちらし・ポスター・リーフレット・図録などを刊行し、新聞紙上での広報等を通じて新鮮な展示を来館者に提供できた。</p> <p>③特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作した。</p> <p>④マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。</p> <p>⑤「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。(年4回)</p> <p>⑥ウェブサイトによる情報提供を行った。(日本語・英語)(随時更新)</p> <p>⑦地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。</p> <p>⑧九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。</p>								
補足事項	<p>①例年実施しているアンケートに加えて、来館者動向の調査を、九州大学金大雄研究室との共同研究として、および科学研究費による研究としても実施した。これらによって実際の来館者の動向がよくとらえられ、今後の文化交流展室の展示活動に大きな指針が得られた。</p> <p>②トピック展示および新春特別陳列として、太宰府顕彰会・徳川美術館および九州内自治体(佐賀市・フレーバル館・老崎市・長崎県・大野城市など)の協賛・協力・共催等によって、当館の自主的な企画の枠を越えた新鮮な展示を提供すると同時に、広報することができた。</p> <p>③特別展では、ポスター・チラシを制作。うち2回の展覧会で先行・本チラシおよび先行・本ポスターと複数制作するとともに、広報資料を制作し、チラシ・ポスターとともに関東・関西圏の雑誌、メディア約300媒体と九州圏内の情報誌約150媒体に送付した。イベントやトピック展示の開催など80件のリリースを記者クラブに資料提供した。また、特別展の開催に関する記者発表やプレスプレビューを実施した。</p> <p>④「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を4月1日、7月1日、10月1日、1月1日の4回発行した。</p> <p>⑤特別展関連イベント等の情報掲載を行った。</p> <p>⑥地元の市、商工会、観光協会等と例月の協議会を開催し、情報を交換した。また、20年度から実施している太宰府天満宮参道の商店を対象とした特別展内覧会を「九州国立博物館を愛する会」など対象を広げて実施した。</p> <p>⑦九州観光推進機構を通じ、海外(韓国・中国・台湾・香港・タイ・シンガポール)に随時情報提供を行った。</p>			 <p>玄界灘の海人・老岐(老崎市と共催)</p>		 <p>国宝 初音の調度 ポスター</p>		 <p>季刊情報誌 アジアージュ</p>	
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4回	4回	A		3	4	4	4
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信												
事業名	(1) 展示の充実 ④黒田記念館所蔵作品の公開機会の拡大												
担当者	担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	列品管理課長 谷 豊信									
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年3月3日から4月12日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「黒田清輝のフランス留学」を開催した。(20年度事業実績として評価済) 平成22年2月23日から4月5日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「農村(田園)へのまなざし」を開催した。 												
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 特集陳列「黒田清輝のフランス留学」では、当館収蔵の黒田作品(黒田記念館収蔵品および絵画部門収蔵品)に加え、東京藝術大学所蔵の黒田清輝関連作品も合わせて展示し、好評を博した。展示総件数34件、うち黒田記念館収蔵品18件。 特集陳列「農村(田園)へのまなざし」では、黒田記念館収蔵品の黒田作品に当館絵画分野の浅井忠の作品を交え、日本におけるバルビゾン派受容の様相を示した。展示総件数34件、うち黒田記念館収蔵品31件。 									<p style="text-align: center;">特集陳列「農村(田園)へのまなざし」</p>			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21				
	特集陳列展示件数	34件	—	—		44	34	34					
	内、黒田記念館収蔵品数	31件	—	—		44	18	31					
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)												
中期計画記載事項	黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。												
中期計画に対して順調に成果を上げているか。									順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (1/4)								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 浅見龍介					
実績・成果	<p>1)先導的事業のモデル化及び実践</p> <p>○親と子のギャラリー（平常展の一環として実施する教育普及展示） 「日本美術のつくり方」7/28～9/6(36日間)本館特別2室</p> <p>○体験型プログラムの実施 オリジナルスタンプを使った「日本のもようでデザインしよう」をはじめ、平常展や特別展に関連した体験型プログラムを実施(ほぼ毎日実施)。伝統文化への理解を深める機会とした。</p> <p>○「みどりのライオン」プロジェクト みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」事業を本館20室で実施した。</p>								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・親と子のギャラリー「日本美術のつくり方」では、日本古美術の伝統的な制作技法を、工程模型、図版・映像、ハンズオン体験コーナーの設置によって理解しやすいように構成。作品への興味を喚起し、より深い鑑賞に導いた。作品の素材に触れ、技法を間近に見ることができるよう模写、材料等の鑑賞ツールをハンズオン体験コーナーに設置した。 ・体験型プログラムは、実物を展示室でじっくり見て、それをもとに制作等を実地体験するもので、作品の色や素材、表わされているモチーフ、技法等への興味を喚起し、従来見逃していたポイントを気づかせることにより、鑑賞を深める恰好の機会となった。 ・「みどりのライオン」プロジェクトでは、館全体のガイダンス機能を重要な柱とし、各種レクチャーや体験型プログラム、制作工程模型展示などを、一般から学校団体まで幅広い層に向けて展開した。小中学生、外国人利用者が増え、展示との関連性をより高めるための教育普及活動を実施した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	体験型プログラム参加者数	124,785人	—	—		98,939	113,492	75,675	124,816
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



ファミリーワークショップ
「からだの動くエビを作ってみよう」実施風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (2/4)								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 浅見龍介					
実績・成果	<p>2) 学校との連携事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールプログラム (小・中・高等学校団体対象) ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラム、キャリア学習のためのプログラムなどを提供。伝統文化鑑賞の理解促進に寄与した。 ・高等学校の単位制授業に3回にわたる教育プログラムを提供 (共催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館)。連携する高校以外からも広く参加を受け入れた。 ・都内及び近県の小中学校教員を対象とした研修会を2回実施。 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会の研修会への協力。講演等3件(7月29～31日 共催：東京芸術大学) ・教員特別鑑賞会・ガイダンスの実施 計3回。 ・大学院生を対象としたインターンシップを実施 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールプログラムは、講義形式、対話形式、体験型と多様な方法を用意し、学校との事前の相談で内容を決めている。毎年来館する学校、遠方からの申し込みも増え、定着している。 ・中学、高校の美術部が夏休み等を利用して、ワークショップに来館することが増加している。 ・教員研修は、日本古美術を学校教育で取り上げてもらうことを目的として行なっている。関心は高く、アンケートの回答によると授業に盛り込む検討をする教員が多数みられる。 ・インターンシップは将来学芸員になることを希望する大学院生を対象に、年間30日までの実務に就くことを条件としている。本人の希望する部署で職員とともに日々の仕事に当たる。当館のインターンを経験して学芸員になった者も年々増えている。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	スクールプログラム	163校5732人	—	—		87校 1580人	187校 4646人	133校 5857人	163校 5732人
	教員鑑賞会	617人	—	—	965人	408人	868人	617人	
	インターンシップ	17大学21人	—	—	18大学 18人	12大学 20人	18大学 25人	17大学 21人	
年度実績評価総括	S <u>Ⓐ</u> B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



スクールプログラム
「裏側インタビュー」実施風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (3/4)								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 加島勝					
実績・成果	<p>2) 学校との連携の推進 東京芸術大学との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、大学院生がギャラリートークを行った。 ・当館蔵仏画の制作工程模型を作成、展示し、その解説を行なった。 体験コーナーに於ける陳列期間：平成22年1月13日～4月18日 ・上記2件の合計：大学院生8名、ギャラリートーク回数74回、参加者数2,636名 ・キャンパスメンバーズ会員校を対象とした事業を実施した。 博物館セミナー 3回 (8月19日、21日、27日 計6時間) 参加者 224名 教育連携事業 9日間 (8月17・18・19・20・21・25・26・27・28日 計32時間) 参加者 15大学より、計23名 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリートーク実施者にとっては、参加者にわかりやすい内容や話し方を工夫することが貴重な経験となり、参加者は作品鑑賞の理解を深めることができた。 ・制作工程模型の作成は、古典的技法を体験することにより、制作者自身が新知見を得ることができ、その説明を受けた観覧者が作品の制作に関して疑問を解く手がかりを得ることができた。 ・総じて東京芸術大学との連携事業において、模型の制作・平常展ギャラリートークを行うことで、学生の学習意欲を喚起し(当館の所蔵作品における新知見を見出す等)、発表する機会を提供した。その結果として博物館の事業および文化財について、来館者の多角的な視点での鑑賞・理解を一層深めることにつながった。 ・博物館セミナーでは、大学における博物館学の学習に資するように、企画展の開催までの業務、文化財情報の管理、研究者の研究手法など、博物館の現場ならではのトピックを取り上げ、受講者に提供した。 ・博物館セミナーは受講者の学習に役立つのみならず、未来の文化財保護を担う大学生に対し、博物館のメッセージを直接伝える場としても有効であった。 ・教育連携事業では、博物館事業の諸側面に関して、グループ実習を取り入れ、博物館と文化財へのさらなる愛着や理解を促進した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21
	東京芸術大学登録者数 キャンパスメンバーズ加入校数	8人 35校	— —	— —	経年 変化	9人 16校	9人 22校	7人 29校	8人 35校
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						



東京芸術大学学生ボランティアによる
ギャラリートークの様子

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (4/4)									
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育講座室長 鷺塚麻季						
実績・成果	<p>3) 講演会・列品解説・講座等の実施 講演会：実施 24 回（月例講演会 12 回、テーマ講演会 1 回、記念講演会 11 回） 列品解説等：実施 126 回（ギャラリートーク等を含む） 連続講座：実施 1 回（3 日） 公開講座：実施 2 回</p> <p>その他教育的イベント等： ・狂言上演 ・興福寺講座 ・恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業「上野の山でクマめぐり」 ・台東区連携事業「前野まさるとゆく“東京国立博物館建物探訪”」 ・マルチメディアを利用した日本伝統文化の普及活動：スイス・リートベルク美術館の事例 ・保存と修理の現場へ行こう</p>									
補足事項	<p>・多様な講座・講演会等により、文化財に対する理解と親しみを促進した。列品解説は取り上げる作品の数が増えて内容が充実し、また、国立科学博物館と上野動物園との連携企画も定着するなど、順調に成果を上げている。</p>								月例講演会	
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21	
	講演会等の実施回数 参加者数 うち 講演会 実施回数 参加者数 列品解説等実施回数 参加者数 連続講座実施回数 参加者数 公開講座実施回数 参加者数	153 回 12,546 人 24 回 5,600 人 126 回 6,550 人 1 回 320 人 2 回 76 人	— 10,915 人	— A		98 11,035 30 6,542 41 3,055 1 325 26 1,113	142 11,361 24 4,770 101 3,934 1 288 16 2,369	132 12,332 29 7,134 101 4,774 1 356 1 68	153 回 12,881 24 5,600 126 6,550 1 320 2 76	
年度実績 評価総括	S A B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調									

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜講座を展覧会にあわせて開催（19回） ・夏期講座「文化の波及と変容Ⅲ」を実施（7/29～31） ・「社会科教員のための向上講座について」（10/27）を実施（32名参加） ・小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を発行 ・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当 ・キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携（30校） ・京都橘大学との連携を行い、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施 ・「留学生の日」（10/25）を実施 ・「少年少女博物館くらぶ」（7/25）を実施 ・京都市内の小中学校への訪問授業（6/17、金閣小学校児童160名）（11/2、蜂ヶ岡中学校生徒228名） ・「文化財ソムリエ」（7名）を対象としたスクーリング（10/19、11/2、12/7、1/18、2/15） ・博物館の事業・運営に対する意見等を聴くモニターを実施。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜講座・夏期講座については、従来平常展示館講堂にて開催してきたが、展示館建替工事のため、講堂も閉鎖され事業の継続が危ぶまれた。しかし、学習機会の提供をつづけるため、外部の施設を借りて実施にこぎつけた。なお目標値を割り込んでいるのは、開催回数が大幅に減っていることによるもので、1回あたりの参加者はむしろ増加傾向にある。 ・土曜講座は21年度末で1693回を数える当館の伝統的な普及活動で、高い評価を得ている。 ・夏期講座も例年東京などから泊まりがけで参加される聴講者も多数いて、見学会も合わせ好評を博している。 ・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座では、研究員5名が客員教授（2名）、准教授（3名）を担当し、博士前期・後期課程の学生に対し、実作品の展示・調査活動を通して専門的教育を行っている。 ・外国人留学生の「留学生の日」入館者は、同伴者を含め136名。「日蓮と法華の名宝」展の観覧により文化財への理解を深める機会を提供するとともに、お茶会を催し、留学生を通じて、日本の伝統文化の国外への発信を行った。 ・「少年少女博物館くらぶ」については、以前は平常展において展示解説を行っていたが、平常展休止に伴い、本年は、庭園内の石仏をテーマに小中学生向けの展示解説を行った。 ・京都市内の小中学校への訪問授業については、文化財の高精細複製を教材として、金閣小学校（6/17）、蜂ヶ岡中学校（11/2）を訪問し、子どもたちが美術や文化財に親しむきっかけづくりをした。 ・「文化財ソムリエ」については、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生を対象に参加者を募集し、22年度からの訪問授業に向けてスクーリングを実施した。 ・「社会科教員指導力向上講座」については、京都市内の小中学校で社会科を担当する教員を対象として、講義と特別展のギャラリートークを行った。 								
定量的評価	項目		実績	目標値	評価				
						18	19	20	21
	講演会等	参加者数	3,002人	5,181人	経年変化	4,980	4,489	3,413	3,002
		実施回数	21回			48	46	37	21
	うち土曜講座	参加者数	2,791人			4,827	4,329	3,254	2,791
		実施回数	19回			47	45	36	19
	うち夏期講座	参加者数	179人			153	160	159	179
		実施回数	1回(3日)			1	1	1	1
	うち社会科教員のための向上講座について	参加者数	32人			—	—	—	32
		実施回数	1回			—	—	—	1
	訪問授業参加児童生徒		388人	—		—	—	—	388
	キャンパスメンバーズ加入校		30校	—		—	15	21	29
	モニター会員数		36名	—	—	33	32	35	36
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



夏期講座「文化の波及と変容Ⅲ」

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供								
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長 吉澤 悟					
実績・成果	<p>講演会等 参加者数 3,421人、実施回数 33回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展に伴う公開講座の実施 16回 参加人数 2,043人 (2009年4月～2010年3月) ・当館関係者によるサンデートークの実施 11回参加人数 584人 (2009年4月～2010年3月、毎月1回) ・夏季講座の実施 8/18～8/20 (1回 (3日間))、参加者 391名 (／各日) ・大学等との合同講座 実施回数 4回 参加人数 353人 <ul style="list-style-type: none"> 奈良県立大学との合同公開講座の実施 3回 (9/6、9/13、9/20) 参加者総数 260名 東京大学東洋文化研究所との合同公開講座 1回 (9/21) 参加者数 93名 ・鑑真和上・唐招提寺フォーラム 2009の実施 5/2 参加者数 385名 ・正倉院国際シンポジウムの実施 10/31 参加者数 184名 ・奈良市教員研修の実施 8/25 参加者数 190名 ・世界遺産学習特別勉強会の共同開催 3/6 参加者数 50名 ・世界遺産学習実践研修会 (於. 奈良教育大学) の共同開催 1回 ・解説ボランティアによる作品解説 <ul style="list-style-type: none"> 展示会場での解説 305日 (2009年4月～2010年3月) 学校団体案内 37件 (同上) 一般グループ案内 47件 (同上) 正倉院展の講堂解説 112回 (正倉院展会期中毎日4～7回) 世界遺産学習の受入 30件 (奈良市内の全小学校5年生を対象に実施) 								
補足事項	 <p>サンデートークの風景</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変 化	18	19	20	21
講演会等	参加者数	3,421人	3,542	B		2,743	2,949	3,655	3,421
	実施回数	33回	—	—		25	28	32	33
うち特別展等講座	参加者数	2,043人	—	—		1,586	1,943	2,706	2,043
	実施数	16回	—	—		12	15	19	16
	満足度	95.6%	—	—		86.3	87	90	95.6
うち夏季講座	参加者数	391人	—	—		486	358	362	391
	実施回数	1回(3日)	—	—		1	1	1	1
	満足度	92.0%	—	—		93	84	90	92.0
うちサンデートーク	参加者数	584人	—	—		671	648	587	584
	実施数	11回	—	—		12	12	12	11
	満足度	90.6%	—	—		—	—	—	90.6
うち大学との合同講座	参加者数	353人	—	—		—	—	—	353
	実施回数	4回	—	—	—	—	—	4	
	満足度	86.0%	—	—	—	—	—	86.0	
	小中学校へのメールマガジンの配信	220校	220校	A	220	220	220	220	
	放送大学面接授業	98人	150人	C	160	150	178	98	
	キャンパスメンバーズ加入校	27校	—	—	12	20	25	27	
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供(1/3)							
担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化交流展室長 河野一隆 特別展室長 伊藤信二				
実績・成果	<p>①毎週火曜日（火曜休館の週は休み）に研究員によるミュージアムトークを実施した。（月2回～4回で15～30分程度。1回の平均参加人数は30名程度である。 開催にあたっては昨年と同様に講師の調整は担当研究員が行い、実際の運営にあたってはボランティアコーディネーターの指導により、ボランティアの手で行われている。当館では展示替えが頻繁に行われていることから、展示解説ボランティアにとっても資料学習の良い機会となっている。</p> <p>②学校教育と連携事業を実施した。</p> <p>③特別展記念講演会・シンポジウムを開催した。</p>							
補足事項	<p>①ミュージアムトークでは、開館以来、展示品を来館者が分かりやすく、気軽に楽しめるスタイルを踏襲しており、web上で告知することによって、好評を博している。</p> <p>②各特別展で、近隣の高校に研究員が出向き展覧会の見どころ等を講義した。</p> <p>③各特別展では記念講演会・シンポジウム等を実施した。内容は外部講師や著名ゲストを迎えての、より親しみやすい内容のものと、館外・館内研究者による学術的なものの両面を打ち出し、各層の期待に応えるものとなった。またいずれの特別展でも、地元自治体への出張講演を複数回実施した。</p>							
	特別展「古代九州の国宝」関連イベント 「装飾古墳と科学」シンポジウム風景							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21
	講演会等			経年変化				
	実施回数	73回			76	61	56	73
	参加者数	6,806人	5,255人		6,639	4,168	5,507	6,806
	内特別展記念講演会							
	実施回数	6回			12	7	11	6
	参加者数	1,622人			2,153	1,892	2,670	1,622
	内ミュージアムトーク							
	実施回数	42回			47	42	37	42
	参加者数	1,285人			1,806	1,320	1,096	1,285
	内シンポジウム							
	実施回数	24回			6	1	6	24
	参加者数	3,849人			1,280	316	1,555	3,849
	内ミュージアム講座							
	実施回数	1回		11	11	2	1	
	参加者数	50人		1,400	640	186	50	
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)							
中期計画 記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(2/3)							
担当者	担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員	池内 一誠			
実績・成果	<p>①体験型展示室「あじっば」における展示・体験活動の充実 「あじっば」のうち、アジア各国の伝統文化・生活文化等を紹介する「屋台」において延べ13回、「あじ庵」において延べ2回、「あじぎやら」において延べ4回の展示替えを行った。従来からの体験プログラムの展開に加え、新たに「タングラム」(中国を起源とする、7つのパーツを組み合わせてさまざまなシルエットをつくるパズル)を追加した。また、小・中学生層を対象に、博物館学芸員の仕事の一部を体験するプログラム「なりきり学芸員体験」を実施し、新たなバージョンとして「なりきり考古学者」を開発・実施した。また、ベトナム民族学博物館の「Mid Autumn Vietnam-Japan 2009」に協力し、新規開発した「屏風のしくみ」「貝合わせをつくろう」のワークショップを実施した。</p> <p>②夏休み子ども向けイベント「いこうよ!あじっば夏祭り」の実施 夏休み子ども向けイベント「いこうよ!あじっば夏祭り」を7月18日～20日に実施した。</p> <p>③初等・中等教育との連携 学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用を継続しつつ、改善点の抽出、新たなコンテンツの可能性について検討した。また、中学生の職場体験の受け入れ、高校生を対象とした博物館理解のためのプログラム「ジュニア学芸員活動」を実施した。</p> <p>④高等教育との連携 博物館学芸員課程を履修する学生のための「博物館実習」を実施し、また、筑紫女学園大学との連携による「ガムランワークショップ」を実施した。</p> <p>⑤教員を対象としたプログラムの実践 福岡県教育センターとの連携により、キャリアアップ講座「伝統と文化の社会科授業づくり」を実施した。また、県高等学校歴史研究会研修会を3回実施した。</p>							
補足事項	<p>①「屋台」の展示については、季節に応じた展示をすることを心がけた。「あじ庵」においてはCCDカメラ、実物楽器の演奏体験など、ハンズオンの手法を積極的に取り入れ、好評を博した。「あじぎやら」においては、特別展に関連した展示構成、子どもたちにも親しみやすいアプローチでの展示を行った。「タングラム」は教育普及ボランティアの企画によるもので、ボランティア活動の活性化の成果でもある。</p> <p>②内容の企画から準備、当日の運営にいたるまで教育普及ボランティアが主体となって進め、3カ国10コンテンツを運用した。3日間で延べ約150名(子どものみの数)の参加があった。</p> <p>③「きゅうぱっく」の検討については、福岡県高等学校歴史研究会の協力を得、現場の教師との協議を行った。</p> <p>④今年度は小学生～高校生を対象を絞り、定員を満了す回が続くほどの参加者を得た。</p> <p>⑤キャリアアップ講座においては具体的な成果の現れとして、学習指導案が提出された。</p>							
	 <p>「いこうよ!あじっば夏祭り」</p>  <p>あじ庵展示「ならしてみよう♪アジアの響き」</p>							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21
	あじ庵の展示替え	2回	—	経年変化		2	2	2
	なりきり学芸員体験	65回	—			45	63	65
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)							
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信											
事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供(3/3)											
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 樋口 理央								
実績・成果	<p>キャンパスメンバーズ制度に、教育機関（大学・専門学校・高校）が、新規および継続で入会した。また、会員校からの依頼で特別展の出張講義を実施した。</p> <p>キャンパスメンバーズ加入数 29 校 大 学 16 校 短期大学 5 校 専門学校 1 校 高等学校 7 校</p> <p>特別展の出張講義 2 件</p>											
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 本年度から新規に9校が加入した。特典の利用として、文化交流展(平常展)へ3,181名入場、パスポートを1,755名(3月末)の学生会員が購入した。 キャンパスメンバーズについては、加入している高校は年4回の特別展を観覧している。延べ約5,400人の高校生が来館した。その他、平常展において多いメンバー校(大学)では全学生数の30%を超す来館をした学校もあり、若年層への文化財観覧の機会の向上に資することができた。 									出張講義の様子		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21			
	キャンパスメンバーズ加入校	29校	—	—		—	21	22	29			
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)											
中期計画記載事項	学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調											

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 加島 勝					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 活動充実、ハンズオン体験コーナー等で作業を補助する活動を継続して展開した。 ボランティアによるガイドツアー、ワークショップ等の充実を図った。 実施回数 474回、参加人数13,432人 児童・生徒の就業体験を受け入れた。 学校数 32校、生徒数 114人 館内の施設誘導案内を行い、来館者サービスに努めた。 実施期間：通年（開館日は基本的に毎日実施） 実施場所：館内4箇所（本館1・2階エントランス、本館17室、本館20室） 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動方針を踏襲し、各種教育普及事業等の補助、ボランティア自身の自主的な企画立案による活動、各種解説ツアーを実施することにより、来館者への一層のサービス向上を図った。 また、ボランティア自身の啓発も積極的に行なうことにより、「表慶館アジアギャラリーガイド」を新たに企画・立案するなど、より充実した活動を実施することができた。 <div style="text-align: right;">  <p>就業体験の生徒と生涯学習ボランティアが共にハンズオン体験コーナーの補助を行う</p> </div>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21
	ボランティア数	163人	—	—	経年変化	151	153	164	163
	うち生涯学習ボランティア登録者数	155人	—	—					
	うち東京芸術大学学生ボランティア数	8人	—	—					
年度実績	S (A) B C F								
評価総括	(S、Fの理由)								
中期計画記載事項	教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援								
担当者	担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室長 山下善也					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 大学（京都橘大学）との学術協定に基づき、学生 18 名が特別展覧会のアンケート・ボランティアとして活動した。 「日蓮と法華の名宝」展の会期中にあたる 10 月 20 日から 11 月 13 日までの毎火・水・金曜日（11/3 を除く）に、当館職員による事前講習ののち、来館者に声かけしアンケートを行った。 調査・研究支援ボランティアの募集と各種事業活動の充実を進めた。大学院生等 10 名が、当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業務の補助として、調査作品の計測、調書の作成、撮影等を行った。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を行った。 「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリング（10/19、11/2、12/7、1/18、2/15） 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 大学（京都橘大学）との連携を行い、10 月 20 日から 11 月 13 日までの毎火・水・金曜日（11/3 を除く）に、当館職員による事前講習ののち、「日蓮と法華の名宝展」観覧後の来館者に声かけしアンケートを行った。 調査・研究支援ボランティアの募集を行い、社寺調査をはじめとした各種の調査研究活動に参加し、活動のスムーズな実施と充実を図った。 「文化財ソムリエ」については、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生を対象に参加者を募集し、平成 22 年度からの訪問授業に向けてスクーリングを実施した。また、蜂ヶ岡中学校での訪問授業（11/2）では、文化財ソムリエが補助講師として解説を担当した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	ボランティア数	35 人	—	—		23	23	30	35
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画 記載事項	教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								



ボランティア活動の様子

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援								
担当者	担当部課	学芸部教育室	事業責任者	教育室長 吉澤 悟					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別展、特別陳列の開催ごとに1~2回、当館職員による展示内容の研修を実施した。ボランティア全員に全展覧会の図録を配布し、解説のための学習資料とした。 ・ また、高度な内容を含む特別展（今年度は特別展「聖地寧波」）に対しては、学芸部研究員に対する事前の研究会にボランティアも参加し、専門知識の強化をはかった。 ・ 正倉院展会期中にはボランティアによる講堂解説を実施した。教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った後、1~2週にわたる自主トレーニングを経て、現場に臨むよう指導した。 ・ 展示内容に関する疑問について質問用紙を用意し、学芸部職員がこれに回答する等の適切な対応を行った。 ・ また、朝のボランティアのミーティングに学芸部職員が立ち会い、質問等に応じている。 ・ ボランティア室の移動に伴い、新しい部屋の環境整備を行い、蔵書を増加した。 ・ 顔写真入りの新しいボランティア証を作成し配布した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解説ボランティアには自己学習と班内研鑽を推奨し、来館者に対し人柄を生かした柔軟な対応を行っている。 ・ 解説ボランティアの活動は火曜から日曜までの開館日であるが、年に5~6回の月曜日開館および年末年始の開館においても活動可能な人が対応している。 ・ 年度内に一度、全ボランティアと館長・職員による懇談会を行い、共に博物館を支える意識の共有の場を設けている。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p style="text-align: center;">本館展示室における解説風景</p>  <p style="text-align: center;">新ボランティア証のデザイン (正倉院文様)</p> </div>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21
	ボランティア数	98人	—	—	経年 変化	85	96	102	98
			—	—					
			—	—					
			—	—					
年度実績 評価総括	S A B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ②-1 ボランティア活動の支援								
担当者	担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員 上野 知彦					
実績・成果	<p>① 展示解説ボランティアが来館者（個人・団体）に対して4階文化交流展示室内を案内</p> <p>② 体験型展示室「あじっば」内において、教育普及ボランティアが来館者の体験活動のサポート</p> <p>③ 館内案内ボランティアが来館者に4カ国語（日本語・中国語・英語・韓国語）で対応。またバックヤードツアーの実施</p> <p>④ 博物館科学課の指導のもと、環境ボランティアがIPM活動や館内の環境整備をサポート</p> <p>⑤ イベントボランティア・学生ボランティアを中心に、季節に沿ったイベントの企画・実施</p> <p>⑥ サポートボランティアによるボランティア広報紙の作成、及び他館とのボランティア交流の企画・実施</p> <p>⑦ 資料整理ボランティアによる館所有の土人形の調書作成、及びデータベース化</p> <p>⑧ 土日を中心とした手話ボランティアとの協力による障がい者対応</p> <p>⑨ 他団体との共催による子ども向けイベントの実施、及び他館イベントへの参加</p> <p>〔対応来館者数〕※事前予約団体分のみ（当日受付対応数は除く） 展示解説：4,118人 館内案内：5,249人 バックヤード：3,028人</p> <p>〔研修会〕 全体研修：5回 部会研修会：149回 グループ研修会：40回</p>								
補足事項	<p>① 展示室入口にカウンターを設置し、常時ボランティアが待機し、来館者対応を行っている。</p> <p>② 参加体験型のイベントやコンテンツの企画・開発を行っている。</p> <p>③ 館の指導のもと、ガイダンス資料や説明内容等の自主制作をしている。</p> <p>④ 館内観察から生物インジケータの作成・設置、温湿度計の管理、収蔵庫メンテナンスまで幅広い活動を行っている。</p> <p>⑤ 写真展や餅つき・七夕祭りなどを行っている。</p> <p>⑥ 他館だけでなく、当館ボランティア同士の交流を深めるために活動。</p> <p>⑦ 活動の成果として、土人形を「あじっば」内に展示公開している。</p> <p>⑧ 地域の手話ボランティア団体との協働。</p> <p>⑨ 子どもの来館増を目的に「九州国立博物館を愛する会」との協力で「子どもフェスタ」を企画・開催している。</p>		 <p>〈4階展示室案内の様子〉</p>  <p>〈ボランティア企画イベント〉</p>						
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	ボランティア数	345人	—	—	経年変化	293	293	388	345
	全体研修会	5回	—	—		7	17	10	5
	部会別研修	149回	—	—		120	105	95	149
	グループ研修	40回	—	—		—	54	3	40
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加																														
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	吉田勇人																										
実績・成果	<p>友の会、パスポート及び賛助会等の会員の確保に努めるとともに、地域や企業との連携を推進した。</p> <p>1) 友の会・パスポート・平常展割引パス 会員数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>21年度</th> <th>(参考) 20年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>友の会 (1万円)</td> <td>2,085 人</td> <td>1,913 人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">パスポート</td> <td>一般 4,000 円</td> <td>19,547 人</td> </tr> <tr> <td>学生 2,500 円</td> <td>858 人</td> </tr> <tr> <td>平常展割引パス (2,000 円)</td> <td>24 人</td> <td>30 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・オンラインによる友の会、パスポートの申込受付数:331名(20年度は319名)</p> <p>2) 賛助会 会員数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>21年度</th> <th>(参考)20年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別会員</td> <td>16団体</td> <td>13団体</td> </tr> <tr> <td>維持会員</td> <td>24団体・個人178人</td> <td>26団体・個人157人</td> </tr> </tbody> </table> <p>・会員対象の特別鑑賞会等の実施 特別展内覧会 4回 事業報告会 1回</p> <p>3) 地域、機関との連携</p> <p>①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財団法人、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障害者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。</p> <p>②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会及び新座市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員作品展、コンサートなど8つのプログラムを行った。(参加者合計約766名)</p>								種別	21年度	(参考) 20年度	友の会 (1万円)	2,085 人	1,913 人	パスポート	一般 4,000 円	19,547 人	学生 2,500 円	858 人	平常展割引パス (2,000 円)	24 人	30 人		21年度	(参考)20年度	特別会員	16団体	13団体	維持会員	24団体・個人178人	26団体・個人157人
種別	21年度	(参考) 20年度																													
友の会 (1万円)	2,085 人	1,913 人																													
パスポート	一般 4,000 円	19,547 人																													
	学生 2,500 円	858 人																													
平常展割引パス (2,000 円)	24 人	30 人																													
	21年度	(参考)20年度																													
特別会員	16団体	13団体																													
維持会員	24団体・個人178人	26団体・個人157人																													
補足事項	<p>1) ・賛助会団体維持会員・特別会員については若干増加傾向がみられる。</p> <p>・個人の維持会員数は前年度同様、順調に伸びている。</p> <p>2) ・地域との連携事業を進めるためには、相互の資源を活かせる企画を、展示計画と連動させつつ早期に立てることが重要である。</p> <p>・所沢の柳瀬荘を活用した企画を地元の日本大芸術学部と共催し、地域の住民を取り込んだ活動を実施し、一定の成果があったので、今後も継続していきたい。</p> <p>・企業との連携を今後さらに推進していくためには、企業側にも魅力となるような事業を提案するなどの工夫を図っていく必要があると思われる。</p>																														
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21																						
	友の会会員数	2,085 人	—	—		1,346	1,341	1,913	2,085																						
	パスポート会員数	21,598 人	—	—		18,705	16,035	20,405	21,598																						
	賛助会員																														
	特別会員数	16 団体	—	—		16	16	13	16																						
	維持会員数(団体)	24 団体	—	—	22	24	26	24																							
	(個人)	178 人			112	123	157	178																							
年度実績評価総括	S ㊤ B C F (S、Fの理由)																														
中期計画記載事項	企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。																														
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調																														

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加							
担当者	担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	総務課長 大西真一 連携協力室長 山下善也				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。 企業及び大学との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。 「京都市内4館連携協力協議会」の実施 「友の会」事業を継続して実施した。 会員数 2,517人 							
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（4回）・見学会（4回）・会報（4回）の解説・執筆に協力した。 「京都市内4館連携協力協議会」では、京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館、京都国立博物館の4館が連携し、平成22年度より実施する事業「京都ミュージアムズ・フォー」「展覧会及び講座」について協議を行い、広報のための合同パンフレット80,000部の製作を行うとともに平成22年度から友の会の相互協力を行うこととなった。 企業との連携によるバロックコンサートを休館日を利用して開催した。 京都市立芸術大学との連携によるミニコンサート～音楽で巡るシルクロード～を特別展覧会「シルクロード文字を辿って」開催期間中（毎週金曜日：計8回）に特別展示館中央ホールを使用して開催した。 初めての試みとして、「音楽とスイーツで楽しむもう一つのハプスブルク展」と題したスイーツコンサートを特別展覧会「THE ハプスブルク」に合わせてハイアットリージェンシー京都にて開催した。 庭園の青空のもとで、自転車のリキュー氏の協力による「自転車エコライブ」、さらに人間国宝 桂米朝氏所属の米朝事務所の制作協力による「京都・らくご博物館」（4回）を実施した。また、これらのイベント開催に合わせて、特別展覧会の広報を行い、集客策を講じた。 「友の会」会員数においては、平常展示館建替工事のため、一昨年12月7日（日）で同館を閉館したことを受け、加入者数は前年度に比べ約380名減少している。ただし、それは窓口における販売日数が減ったためであり逆に1日平均の加入者は増えている。（20年度：10.9人、21年度：13.5人） 							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21
	友の会会員数	2,517人	—	—	3,784	3,224	2,895	2,517
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)							
中期計画 記載事項	企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							



ミニコンサート

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信													
事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加													
担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長 添田美由紀										
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・友の会 会員数 2,799人（一般2,668人、学生103人、家族28人） ・賛助会 特別支援会員：5団体、特別会員：2団体、一般会員（個人）：32人、（団体）：17団体 ・特別展の実施に対して企業等から協力金等を積極的に獲得した。 ・奈良観光イベント「ライトアッププロムナード・なら 2009」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に積極的に協力した。 													
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県との連携で、本館のライトアップ設備を常設とし、「ライトアッププロムナード・なら 2009」の期間のみならず通年でライトアップを実施した。 									賛助会員芳名板				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21					
	友の会会員数 賛助会数（総数）	2,799件 56件	— —	— —		2,288 35	2,439 45	2,815 49	2,799 56					
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)													
中期計画 記載事項	企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。													
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調										

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②-2 博物館支援者の増加								
担当者	担当部課	総務課 交流課	事業責任者	総務課長 樋口理央 主任主事 藤崎秀典					
実績・成果	①友の会及びパスポート会員は昨年度より増加している。 ②支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施した。								
補足事項	①友の会会員数 20年度 154人→21年度 206人 パスポート会員数 20年度 3,120人→21年度 3,914人			②支援団体や近隣地域と連携したイベント <ul style="list-style-type: none"> 「九州国立博物館を愛する会」と連携して「九博子どもフェスタ」を開催。館内ボランティアや周辺自治体の協力を得て、地域の子どもたちを対象にしたイベントを実施できた。 福岡女子短期大学（太宰府市）と連携して館内のカフェで定期的にコンサートを実施。地域連携の促進及び館内施設の有効利用を図った。 エントランスホールにて博多山笠を展示しているが、今年で4年連続実施している。また、今年度は最長の8月初旬から翌年3月初旬までの展示期間である。この活動は、今年度は西日本新聞社との共同事業として実施した。また、九州各地のひなまつりの展示、伝統工芸の紹介など様々なイベントを通して、地域の代表的な催事等を来館者に広く周知した。 内容を勘案したうえで、自治体や文化団体の主催するイベントを受け入れ、各団体との連携を強化した。これらの様々なイベント事業の実施により来館者へのサービスが促進された。 					
定量的評価	項目	実績	目標値	評価					
	友の会会員数 パスポート会員数	206人 3,914人			経年変化	18 229 1,312	19 167 3,252	20 154 3,120	21 206 3,914
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調						



ひなの国九州フェスタ風景



博多山笠展示風景

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (1/5)												
担当者	担当部課	博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長 加島勝									
実績・成果	<p>○点字解説等の改訂 視覚障害のある方に構内を紹介するための、点字版パンフレットの作成に取り組み、本年度あらたに15部を増刷した。</p> <p>○手話通訳つきガイドツアーの試行 生涯学習ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において、手話通訳つきガイドを月1回開始した(9月19日、10月17日、11月21日、12月19日、1月30日、2月20日、3月20日)</p> <p>○社団法人東京都盲人福祉協会より視覚障害当事者を招き、ボランティア内「点字グループ」メンバーと、視覚障害者への博物館サービスについてヒアリングを行った(12月1日)。</p>												
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害のある方が展示を理解するための有効な手段となっている。 ・当館のバリアフリー化の促進にも寄与した。 ・今後、より多くの方々にご利用してもらえるよう、周知方法等についても検討していきたい。 									点字パンフレット			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21				
	配布部数 増刷部数	5部 15部	— —	— —		— —	— 10	9 10	9 10	5 15			
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)												
中期計画 記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。												
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調										

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (2/5)								
担当者	担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長 浅見龍介					
実績・成果	<p>①「日本美術の流れ」鑑賞のため、4ヵ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）パンフレットを制作</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語：テーマ解説、主な展示作品の解説を収録するため、作品の展示替えに応じて更新。 英語、中国語、韓国語：日本美術の基礎知識を盛り込んだ外国語パンフレットを配布した。 <p>②子供向けワークシート 見学のポイントを示し、書き込み、スケッチ等を促すシートを3種制作した。「本館見学マップ」「暮らしの道具今昔」「日本の伝統もよう」である。</p>								
補足事項	<p>・展示作品を理解するための無料の印刷物としては唯一のものである。外国からの来館者に好評を得ている。</p> <p>・今年度は、本館2階メンテナンス作業に伴う閉室期間があったため、パンフレットの更新回数がこれまでより減少している。</p>				 <p>カラーパンフレット 英語版、中国語版、韓国語版</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21
	日本語パンフレット更新・制作回数	29回	—	—	経年変化	—	39回	36回	29回
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (3/5)								
担当者	担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	デザイン室長 木下史青					
実績・成果	<p>より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備した。</p> <p>a. 本館特別5室 特別展『国宝 土偶展』のため、従来よりもレンズ仕様等の光学性能に優れたカッタースポットライトを補充し、展示効果の高い照明を行った。</p> <p>b. 明治期の「歴史的展示ケース」に光ファイバー照明を取付け、特別展『染付』等に使用した。</p>								
補足事項	<p>a 土偶を中心とした特別展のため、小型の作品を効果的に見せることが可能な、カッタースポット(フレーミングスポットライト)器具を22台購入・補充して使用した。これらの器具は、12Vミラー付ハロゲンランプが使用され、カッターの調整精度の高い器具であるため、土偶の魅力をも迫力ある光で見せるための光学制御が可能となった。</p> <p>当館の展示には1000台以上のカッタースポットが必要と見込まれるが、現保有数は従来型も含め200台程度のため、次年度以降も順次補充をしていく必要がある。</p>				 <p>a. 本館 特5室 特別展 『国宝 土偶』 カッタースポットライト約60台が使用された (うち22台が新規購入分の器具)</p>				
	<p>b これまで使用されていなかった当館の明治期の木製ケース(歴史的展示ケース)3台を改修し、光ファイバー照明を設置した。特別展『染付』において、このケースに陶磁器を展示したことにより、質の高い展示空間が実現し、外部からの評価も高い展覧会となった。</p>				 <p>b. 特別展『染付』 歴史的展示ケースを使用した展示</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	a. 「カッタースポットライト(特別展「土偶展」)	1件(22台)	—	—		—	—	—	1件(22台)
	b. 光ファイバー照明(特別展『染付』)	3件	—	—	—	—	—	3件	
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (4/5)								
担当者	担当部課	学芸企画部	企画課	事業責任者	特別展室長 松嶋雅人				
実績・成果	<p>下記の特別展で音声ガイドの貸出を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「国宝 阿修羅展」(4/1～) 173,192件 (会期中 3/31～:174,903件) ・特別展「伊勢神宮と神々の美術」 25,147件 ・特別展「染付-藍が彩るアジアの器」 5,716件 ・特別展「皇室の名宝-日本美の華-」 85,665件 ・特別展「国宝 土偶展」 15,938件 ・特別展「長谷川等伯」 55,243件 <p>貸出数：計 360,901件</p>								
補足事項									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	音声ガイド貸出件数	360,901件	—	—		—	256,441	305,135	360,901
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (5/5)								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 吉田勇人					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日ざしの強い日や夏季の特別展等の混雑時に、お客様の熱中症対策として、入場待ち及び敷地内移動用の日傘の貸出、日よけ用テント、給水所の設置を実施した。 ・混雑時で雨天の場合は、傘立て置き場にテントを張り、利用時に濡れないように配慮した。 ・混雑した特別展で、休日を中心に看護師の館内常駐を実施した。 ・館内外の利用案内や展示紹介看板について、新規に作成し直して整備した。 ・お客様への貸出用車いすを10台購入した。このうち4台は座高調節式にした。 ・新型インフルエンザの流行を防ぐため、各展示施設入口に消毒用アルコールを設置し、各展示施設の案内カウンター等にマスクを常備し、希望されるお客様へ実費にて販売した。 ・特別展の際に障がい者内覧会を開催した。(三菱商事株式会社と共催) ・外部講師を招き、顧客対応研修会を実施した。 ・上野消防署の協力により、普通救命講習会および防災訓練を実施した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内移動用の日傘は、330本用意した。 ・日よけテントは5～7張り、給水機は多いときで8機を設置した。 ・障がい者内覧会は、三菱商事株式会社が募集を行い、当館共催のうえ、閉館後に研究員が解説を行い、その後観覧していただいた。 <ul style="list-style-type: none"> 「国宝 阿修羅展」 5月14日 296人 「伊勢神宮と神々の美術」「染付」 8月29日 182人 「皇室の名宝展」 10月31日 216人 「国宝 土偶展」 22年1月23日 83人 「長谷川等伯」 2月27日 179人 ・顧客対応研修会は、警備・お客様担当職員、休日日直の責任者となる者および看視等の委託会社社員も参加した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

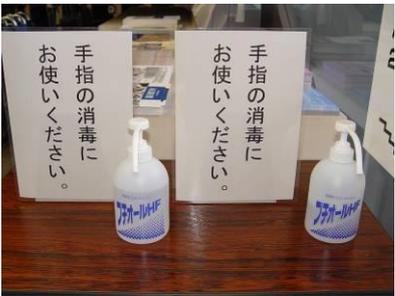
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供								
担当者	担当部 総務課 学芸部	事業責任者 総務課長 大西真一 学芸部長 西上 実							
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平常展示館の建替に伴う南門売店増築工事が完了した。 ・平常展示館の建替工事に着手し建物解体工事が完了した。 ・6カ国語の「展示案内」リーフレットを制作した。 ・展示テーマごとに外国語（英語）パネルを設置した。 ・特別展覧会において音声ガイドによる展示解説を実施した。 ・特別展覧会において入館待ち時間の情報等をHP等できめ細かく発信し、観覧の便を図った。 ・来館されるお客様によりよい環境で観覧していただくため、HP等で展示室内での注意事項を掲載し、展示室内でのマナー向上について協力をお願いした。 ・当館職員並びに売店、レストラン従業員、(財)京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を開催し、接客技能の修得に努めた。 ・東山消防署の協力により、地域と連携した消防訓練を実施した。また、普通救命講習及びAEDの取扱講習会を開催した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・将来構想検討委員会建設事業小委員会において、博物館の外構整備に関する基本計画が策定され、将来構想検討委員会にて承認された。 ・音声ガイド利用台数 「妙心寺」：9,960台 「シルクロード 文字を辿って」：2,894台 「日蓮と法華の名宝」：17,087台 「THE ハブスブルク」：48,856台 ・特別展覧会において、日よけテント・待合所テントの設置、自動販売機及び観光客の旅行用大型バック（カート）の収納可能な大型ロッカーなどの増設、集合場所・時間案内を知らせる団体用伝文板の設置、休憩所の設置、夏季には入り口に冷風機を設置する等、来館されたお客様に十分配慮した。 ・事務職員はすべて普通救命講習を受講しており、衛士は上級救命講習を受講している。AED取扱についても機会があるごとに繰り返し訓練している。 ・平成20年度より京都市消防局及び京都市内事業所等で組織する「安心救急ネット京都」へ加入し、AED設置、救命講習の受講等応急手当の普及啓発に組織的に取り組んでいる。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	音声ガイド貸出件数	78,797件	—	—		53,232	50,344	34,597	78,797
	リーフレット	6カ国語	6カ国語	A		6カ国語	6カ国語	6カ国語	6カ国語
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



増設したコインロッカー

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供							
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	渉外室長 添田美由紀				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本館、西新館、仏教美術資料研究センターの改修工事に着手。 ・「正倉院展」期間中に入場待ち列用テントを設置、看護師の館内常駐を実施。また混雑緩和のため、入場者数を調整したり、11月1日は団体入場受付の取りやめを行ったり、混雑状況をホームページ等で情報提供した。 ・さらに、地元ボランティア団体と協力して外国人用案内ブースを設置、英語による案内を行った。 ・オータムレイト券購入者に記念品（第2回のポスターを模したしおり）を配布した。 ・新型インフルエンザの流行を防ぐため、消毒用アルコールを増設。 ・新たに客数情報システムを導入することにより、展示室内の観覧者数を正確に把握できるようにし、混雑時に適切な入場案内を行えるようにした。 ・特別展において音声ガイドの貸出を行い、入館者が展示内容に理解を深めながら観覧できるようにした。 ・ケース内の環境を保持し、展示品が鑑賞しやすいことを目的として、ケース内単独の調湿装置、発熱の少ないLED照明、光ファイバー、高透過低反射ガラスをそなえた独立ケースを3台新造した。 							
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本館、西新館、仏教美術資料研究センターの改修工事は、平成22年度中に完了する。 ・正倉院展における各種観覧者サービスにより、アンケート満足度が対前年度で4ポイント上昇した。 							
	 <p style="text-align: center;">入口消毒用アルコール</p>							
	 <p style="text-align: center;">正倉院展入場待ちテント</p>							
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	18	19	20	21
	音声ガイド貸付件数	51,970件	—	—	41,490	37,110	60,356	51,970
	リーフレット	7カ国語	7カ国語	A	7カ国語	7カ国語	7カ国語	7カ国語
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)							
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。							
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供								
担当者	担当部課	総務課 企画課	事業責任者	総務課長 文化交流展室長 特別展室長	樋口理央 河野一降 伊藤信二				
実績・成果	<p>①特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。特別展では、観覧者の理解を助けるための教育普及プログラムを実施した。</p> <p>②中国からの大規模団体客ツアーに対応するため、文化交流展示室の内容を紹介する中国語ガイドブックを作成した。</p> <p>③英語・中国語・韓国語による簡単な展示解説付マップを作成し、配布した。</p> <p>④リーフレットを引き続き7カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）を作成した。</p> <p>⑤九博概要は新たに英語を追加し、4カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）とした。</p> <p>⑥大混雑した「国宝阿修羅展」において、休館日に障がい者の日を設けることで、障がい者の方にも静かな観覧環境を提供した。</p>								
補足事項	<p>①「聖地チベット」展では、日本ではあまりなじみがないチベット独特の尊格に親んでもらうため、おみくじを引くように自分の守護尊を選ぶ「守りがみ」を企画、作成し好評を得た。この「守りがみ」の企画は、巡回先（北海道立近代美術館）へも引き継がれ、好評を得た。</p> <p>「興福寺創建1300年記念 国宝阿修羅展」では、観覧者に展覧会のみどころをわかりやすく解説することを目的とし、会期中3回にわたり「阿修羅新聞」計50万部を発行、第1号は福岡県下の小学生全員に事前配布した。</p> <p>「古代九州の国宝」では、来館者により考古学に親しんでいただくため、小冊子「古代少年のなぞときメモ」を作成、配布し、「なりきり考古学者体験」を実施した。</p> <p>「京都妙心寺 禅の至宝と九州・琉球」展では、教育普及の取り組みとして、観覧者に禅のキーワードをわかりやすく解説いただける「プチ禅カード」を作成、配布した。</p>				 <p>阿修羅新聞第1号</p>  <p>障がい者の日観覧風景</p>				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21
	音声ガイド貸出件数	139,159	-	-	経年変化	69,552	74,367	67,663	139,159
	うち特別展	133,833	-	-		59,707	62,661	59,547	133,833
	うち文化交流展示	5,326	-	-		9,845	11,706	8,116	5,326
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信											
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善											
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 吉田勇人								
実績・成果	<p>○特別展アンケート すべての特別展で実施し、どの展覧会も75～80%と概ね高い満足度となった。 また、「国宝 土偶展」から新規にタッチパネル式アンケートシステムを導入した結果、回収率が従来の約3倍となった。</p> <p>○平常展満足度調査（21年4月1日～22年3月31日） 回収サンプル数 997件（日本語751件、英語193件、韓国語47件、中国語6件） 満足度 80%（とても満足44%、やや満足36%、どちらともいえない6%、やや不満2%、とても不満2%、無回答10%）</p> <p>○「東京国立博物館来館者調査研究会」報告書の作成 過去3年間の平常展満足度調査及び昨年度実施した非来館者意識調査の結果を、館内に設置した東京国立博物館来館者研究会において分析し、具体的な改善策を提言した。</p> <p>○「博物館における外国人見学者の受入れ体制に関する現状把握調査」への協力 観光庁が実施した、外国語による情報提供の現状把握を目的とする現地調査及びグループディスカッションに全面的に協力し、課題点等を整理した。</p>											
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 特別展アンケート結果から、どの展覧会も平均して高い満足度となった。この結果を踏まえ、次年度以降の展覧会でもより高い満足度となるよう、アンケートを積極的に活用していきたい。 「東京国立博物館来館者調査研究会」報告書の提言、及び「博物館における外国人見学者の受入れ体制に関する現状把握調査」の結果等を受け、来館者のより利用しやすい観覧環境づくりのために、来年度以降優先的に取り組む事項の整理に着手した。 									タッチパネル式アンケート		
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21			
	Story of …満足度	78.7%	—	—								
	国宝 阿修羅展満足度	77.6%	—	—								
	伊勢神宮と神々の 美術展満足度	70.9%	—	—								
	染付展満足度	78.3%	—	—								
	皇室の名宝展満足度	76.8%	—	—								
	国宝 土偶展満足度	88.8%	—	—								
	長谷川等伯展満足度 平常展	88.8% 80.0%	— —	— —					84.6% 80.0%			
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)											
中期計画 記載事項	一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的を実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。			順調									

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	大西真一				
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 入館者アンケートを実施 <ul style="list-style-type: none"> 特別展覧会「妙心寺」満足度 89% <ul style="list-style-type: none"> 回答数 918 件 (良い 59%、まあまあ良い 30%、どちらともいえない 2%、あまり良くない 1%、良くない 1%) 特別展覧会「シルクロード—文字を辿って—」満足度 80% <ul style="list-style-type: none"> 回答数 696 件 (良い 46%、まあまあ良い 34%、どちらともいえない 11%、あまり良くない 1%、良くない 4%) 特別展覧会「日蓮と法華の名宝」満足度 79% <ul style="list-style-type: none"> 回答数 1056 件 (良い 57%、まあまあ良い 22%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 1%、良くない 1%) 特別展覧会「THE ハプスブルク」満足度 90% <ul style="list-style-type: none"> 回答数 1955 件 (良い 58%、まあまあ良い 32%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 2%、良くない 1%) 特別展等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 特別展覧会において入館者アンケートを実施した。特に回答する必要のある場合には、電話等で回答した。 今年度は平常展示館が建替工事のため休館しており、特別展示館で開催される特別展覧会の入館者アンケートのみ実施した。 								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21
	平常展満足度	—%	—			73%	72%	70%	—%
	妙心寺展満足度	89%	—						
	シルクロード展満足度	80%	—						
	日蓮展満足度	79%	—						
THE ハプスブルク展満足度	90%	—							
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	渉外室長 添田美由紀					
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常展アンケート（全開館日） 回答数 1,633 件（良い 68.4%、普通 12.8%、良くない 5.7%、無回答 13.1%） ・ 英語版平常展アンケート（全開館日） 回答数 70 件 ・ 特別展アンケート 「国宝 鑑真和上展」 回答数 263 件（良い 90.2%、普通 4.9%、良くない 3.0%、無回答 1.9%） 「聖地寧波展」 回答数 106 件（良い 75.4%、普通 15.1%、良くない 6.6%、無回答 2.9%） 「第 61 回正倉院展」 回答数 1,091 件（良い 79.3%、普通 12.8%、良くない 5.4%、無回答 2.5%） ・ 特別展について、専門家の展覧会評を「博物館だより」に 1 回掲載 								
補足事項	・ 正倉院展アンケート結果のうち、「良い」が昨年度に比べて 4 ポイント上昇し、「良くない」が 2 ポイント減少した。また、アンケート回収率・回収数も前年度より上昇した。								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価		18	19	20	21
	平常展満足度	68.4%	—	—	経年 変化	68%	66%	67%	68.4%
	鑑真和上展満足度	90.2%	—	—		—	—	—	—
	寧波展満足度	75.4%	—	—		—	—	—	—
	正倉院展満足度	79.3%	—	—		67%	68%	75%	79.3%
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画 記載事項	一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	樋口理央				
実績・成果	<p>①館内に設置しているアンケート調査から得られた意見・要望に対して、可能なものについては改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常展アンケート（満足度） 回答数 568 件 （とても良い 38%、良い 28%、普通 13%、あまりよくない 5%、よくない 4%、未記入他 12%） <p>②昨年度に引き続き、来館者が利用するエリアを中心に、ユニバーサルデザインの視点に立つて既存施設の点検を行った。今年度に整備できた事項としては、階段の識別性向上、トイレのサイン設置・改善、トイレのターゲットシール貼りなどがあげられる。施設整備の面では、一層のレベルアップが図られ、来館者サービスの向上につなげることができた。</p>								
補足事項	<p>①西鉄太宰府駅でお客様により早く情報提供出来るように、当館へのアクセス掲示・チラシ配布台を設置した。</p> <p>②平成 18 年に改正されたバリアフリー法では、既存の博物館についても、バリアフリー法の基準に適合させるように努力義務が課せられている。バリアフリー法における「建築物移動等円滑化誘導基準チェックシート」に基づき施設の点検を行い、バリアフリー法の基準に近づけるように、どのような整備が必要か福岡県建築都市部建築指導課と交渉を重ねた。今年度は、エントランスにある屋内階段の段の識別性向上のための工事を行うこととした。エントランスの階段（1 階～3 階、3 階～4 階）は、全体が木材で仕上げられており、段鼻が視認しにくく、表面も滑りやすい仕上げであったため歩行者の転倒の危険性があった。災害発生時はエレベーターやエスカレーターが利用できないため多くの人がこの階段を利用する。事故の予防的観点からも、段鼻および階段に接する誘導ブロックにシートを張ることにより、これらの問題を解決することができた。</p> <p>また、トイレにおいて大便器の使用方法を説明する 3 カ国語（英語、中国語、韓国語）表示のサインを設置した。洗浄センサーの部分にも英語表示を追加して、外国人対応を充実させた。</p> <p>男子トイレ小便器には、尿の飛散を予防するため、ターゲットシールを貼った。尿をかけると色が変わるタイプの製品で、目標物に向かって尿をかけたくなる男性心理を利用した試みである。このターゲットシールを貼った後、「小便器周囲の床の汚れが少なくなった」との清掃担当者から報告をうけていることから、効果が確認できた。</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	平常展満足度	66%	—	—		61%	64%	63%	66%
	聖地チベット展満足度	90%							
	国宝 阿修羅展満足度	90%							
	古代九州の国宝展満足度	89%							
京都妙心寺展満足度	92%								
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、F の理由)								
中期計画記載事項	一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				



太宰府駅案内板



階段



トイレのサイン



ターゲットシール

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等の改善								
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 吉田勇人					
実績・成果	<p>ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努めた。 また、ミュージアムショップに関連した企画等に協力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。 新たな絵はがきについて、3年計画3年目の今年度は、32種類を製作した。 書道博物館と連携した特集陳列「趙之謙」の開催期間中、書道博物館のオリジナルグッズを販売し、当館と他館との連携事業に協力した。 ミュージアムシアター企画「洛中洛外図」にあわせたリーフレットを販売し、当館と企業との連携事業に協力した。 収蔵品をモチーフとした紙袋を1種、本館の装飾をモチーフとした包装紙2種および紙袋2種をあらたに製作し、サービスの向上に努めた。 レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、展覧会にあわせメニューを変える等サービスの向上に努めた。 								
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 新たなミュージアムグッズとして、館蔵品の如来像を忠実に80%に縮小した、完成度の高いレプリカを製作販売した。 上記以外のミュージアムグッズについても、その都度協力会と協議を重ね、新たな商品の開発に貢献した。(ドレミはにわ：埴輪形の土笛、はにわぬりえ：児童向けぬり絵の冊子など) 今後も、ミュージアムショップやレストランと連携協力を図りながら、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。 <div style="text-align: right;">  <p>ドレミはにわ</p> </div>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
	—	—	—	—		—	—	—	—
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画 記載事項	ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。	順調								

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信											
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等の改善											
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長	大西真一							
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 当館の観覧者サービスの一環として欠かせないものとしてミュージアムショップやレストランがある。これらの運営は、当館が主体となって運営すべきであるが、人員や財源等の問題から長年に亘って外部業者に委託を行っている状況にある。また、今年度からインフォメーションコーナーを設け、南門施設として、ミュージアムショップとともにリニューアルさせた。これにより、3施設とも入場券のないお客様にも利用可能となった。 利用者と直に接する南門施設の従業員を対象に接客研修を行った。 <p>【インフォメーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 展覧会関係及び京都観光などのチラシを配置し、各種の案内を行っている。 館外に案内所を設け、入場券が無くても利用していただける施設とし、当館の案内だけでなく、京都市観光協会の協力を得て、京都市内の観光案内等も行うことで利用者に喜んでいただいている。 <p>【ミュージアムショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵はがき販売総数は 350 種類におよび、そのうち当館所蔵品をデザインとして監修した絵はがき数は 159 種類に上っている。 当館とミュージアムショップが協力し、オリジナルグッズとして収蔵作品のクリアファイル、また、新商品としてグリコお菓子の詰合せを販売し好評を得ている。 <p>【レストラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新メニューを取り扱うことで利用者へのサービスを図った。 33 種類のパフェを揃え、利用者の要望に応えた。 											
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 博物館のミュージアムショップやレストランは、利用者にとって快適に過ごせる時間と空間、さらにやすらぎの場でもあるので、より充実を図っていく必要がある。 オリジナルグッズは、幅広い層に購入が可能なワンコイン料金(500円、100円等)の商品の充実を図った。 展覧会ごとに関連グッズや関連書籍等を取り揃え、利用者へのサービスを行った。 博物館に足を運ぶことが出来ないお客様には、通信販売で対応した。 レストランの新メニューとして、お昼のランチメニュー、からふね屋珈琲特製・ケーキコレクション(お抹茶あずき、3種のベリークレープなど)、数量限定コーヒーゼリー・プリンシリーズ(コーヒーゼリーミルクプリン、黒みつ・オ・レなど)を取り扱うことで利用者へのサービスを図った。 パフェについては、向かい側にある三十三間堂にちなみ、33種類のパフェ(お抹茶パフェ、バナナキャラメルパフェ、祇園パフェ、からふねパフェなど)を揃え、利用者の要望に応えた。 これらは、レストランを利用したお客様の声により改善したものである。 インフォメーションコーナー、ミュージアムショップ、レストラン共通の営業カレンダーを制作のほか案内パネルにて業務案内を行う。 南門施設完成後、平常展示館建替工事期間中は、特別展示館が閉館の場合であっても、通常どおり営業している。 									 <p>インフォメーション・ミュージアムショップ</p>	 <p>ミュージアムグッズ</p>	 <p>お抹茶パフェ</p>
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21			
			—	—								
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)											
中期計画記載事項	ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。											
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調							

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等の改善									
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	渉外室長	添田美由紀					
実績・成果	<p>・「正倉院展」では常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店やグッズ販売等のショップが出店した。</p> <p>また、奈良県と連携して地下回廊で県内において生産された物産品を販売する等、地域経済に貢献した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平城遷都 1300 年にちなんでミュージアムショップで記念グッズの取扱量を増やした。 ・博物館のホームページリニューアルに伴い、ミュージアムショップの部分を全面改訂し、閲覧者に商品情報及び通信販売方法をわかりやすく工夫した。 ・ミュージアムショップで博物館監修のオリジナルグッズを販売し、今年度も新商品を追加した。 									
補足事項	<div style="text-align: center;">  <p>平城遷都 1300 年記念グッズ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>博物館監修オリジナルグッズ新製品</p> </div>									
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年 変化	18	19	20	21	
年度実績 評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)									
中期計画 記載事項	ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調						

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
-----	---------------------------

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ミュージアムショップやレストラン等の改善								
担当者	担当部課	広報課	事業責任者	広報課長	不動勝義				
実績・成果	<p>① ミュージアムショップでは、特別展、文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子・グッズなどを提供した。</p> <p>② レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。</p>								
補足事項	<p>① 博物館の記念セレモニーに合わせ、来店者にプレゼントサービスを実施するとともに、記念セット商品(詰め合わせ商品)を販売した。 また、オリジナル商品等のモチーフとなった文化財について説明したポップや看板を増やし、さらに特別展毎にテーマに沿った商品陳列を行うなど、展示の延長となるようなショップづくりに努めた。</p> <p>② 特別展に関連したメニューを提供した。 特別展「京都妙心寺 禅の至宝と九州・琉球」では、白菜京風クリーム煮、豆乳湯葉万十、鮭西京焼など、京都を感じさせる期間限定弁当を提供した。</p>								
	 <p>開館4周年詰め合わせ商品</p>								
	 <p>特別展メニュー</p>								
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	経年変化	18	19	20	21
年度実績評価総括	S (A) B C F (S、Fの理由)								
中期計画記載事項	ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し改善する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					